

下山地区のまちづくり計画

しもやま スマイル プラン

10年間の方向性
5年間の取組



令和3年3月

下山地域まちづくり推進協議会

<目次>

はじめに	1
下山のまちづくりに大切な2つのこと	1
プランの位置づけ	2
1 プランのつくり手・担い手	
2 プランの対象	
3 プランの構成と期間	
4 まちづくりにおける役割	
下山の現状と動向	4
1 人口の状況	5 商業の状況
2 自治区の人口の状況	6 農業の状況
3 観光入込客数	7 住民意識
4 事業所の状況	
住民のみなさんからのご意見	12
下山の10年後の将来像	14
みんなでめざす下山のまちづくりの方向性	15
まちづくりのテーマ	15
まちづくりの分野別の取組	16
1 定住・移住	7 生活環境 地域内交流
2 生活環境 子育て	8 観光
3 生活環境 教育	9 産業
4 生活環境 健康・福祉	10 農地保全
5 生活環境 防災	11 基盤整備
6 生活環境 伝統・文化	
自治区プラン	39
1 阿蔵自治区	5 花山自治区
2 大沼自治区	6 羽布自治区
3 三巴自治区	7 和合自治区
4 田平沢自治区	
まちづくりの進め方と進行管理	54
1 まちづくりの進め方	
2 プランの進行管理	
3 プランの進行管理において毎年度確認する指標	

はじめに

この「しもやスマイルプラン」は、私たちが住む下山を、子どもたちの世代に引き継ぐために、10年先の下山について考え、描いた未来の姿を実現するための行動計画です。

平成22年度に策定した旧「下山まちづくりアクションプラン」に基づき、この10年間、様々な活動が行われてきました。令和元年度にはトヨタ自動車テストコース（Toyota Technical Center Shimoyama）が一部運用開始され、周辺の道路も改良され、豊田市街地とのアクセスの利便性は大きく向上しています。

一方で、人口減少・少子高齢化がさらに進行し、まだ解決すべき課題があります。

地域の課題を認識し、足元ではなく先を見据えながら、私たちができることを行動に移すことで、目標とする10年後の未来が実現し、素晴らしい下山を子どもたちの世代に引き継ぐことができます。

下山に関わるすべての人が、未来の下山のための行動を共有するために、このプランを策定しました。みなさんが下山の将来に関心を持ち、自分ができる取組から始めていきましょう。

下山のまちづくりに大切な2つのこと

1 『WE LOVE しもやま』

（下山への愛情と誇りを高める合言葉）

下山には、たくさんのLOVEがあふれています。
下山への想いを、みんなで形にしていきましょう！

2 みんなで楽しく未来をつくろう

住民が中心となって行う活動、
行政が取り組む事業、
事業者が地域のために行うこと、
みんなで一緒に取り組むこと。
同じ方向を見て、共働で楽しく活動しましょう！



新しくなった

「WE LOVE しもやま」の
ロゴマーク

周りにある18個の円は、11の分野と7つの自治区を表しています。

プランの位置づけ

1 プランのつくり手・担い手

このプランは、「下山地域まちづくり推進協議会」が中心になって策定しました。

計画づくりには、各自治区の住民や下山で活動している団体など、多くの方に参加していただきました。

策定したプランの実現も、これらのみなさんに担っていただくこととなります。

＜下山地域まちづくり推進協議会 構成団体＞

下山地区区長会、下山地域会議、しもやま里山協議会、基盤整備部会、

里楽暮住しもやま会、下山商工会、香恋の里しもやま観光協会、

下山地域営農協議会、地域学校共働本部



2 プランの対象

【対象地区】 下山地区全域

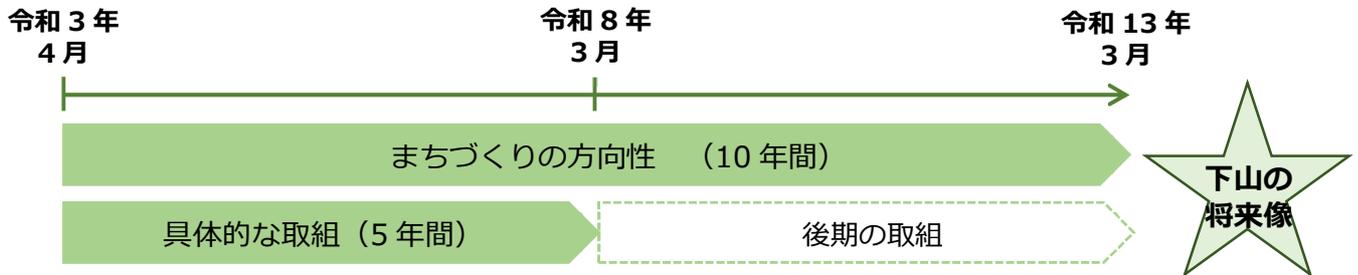
(阿蔵・大沼・三巴・田平沢・花山・羽布・和合自治区のすべて)

【対象項目】 産業、観光、自然、暮らしなど、下山に関わるすべての分野

3 プランの構成と期間

【構成】「下山の将来像」を見据えた「まちづくりの方向性」と、将来像に向かって行動するための「具体的な取組」により構成されています。

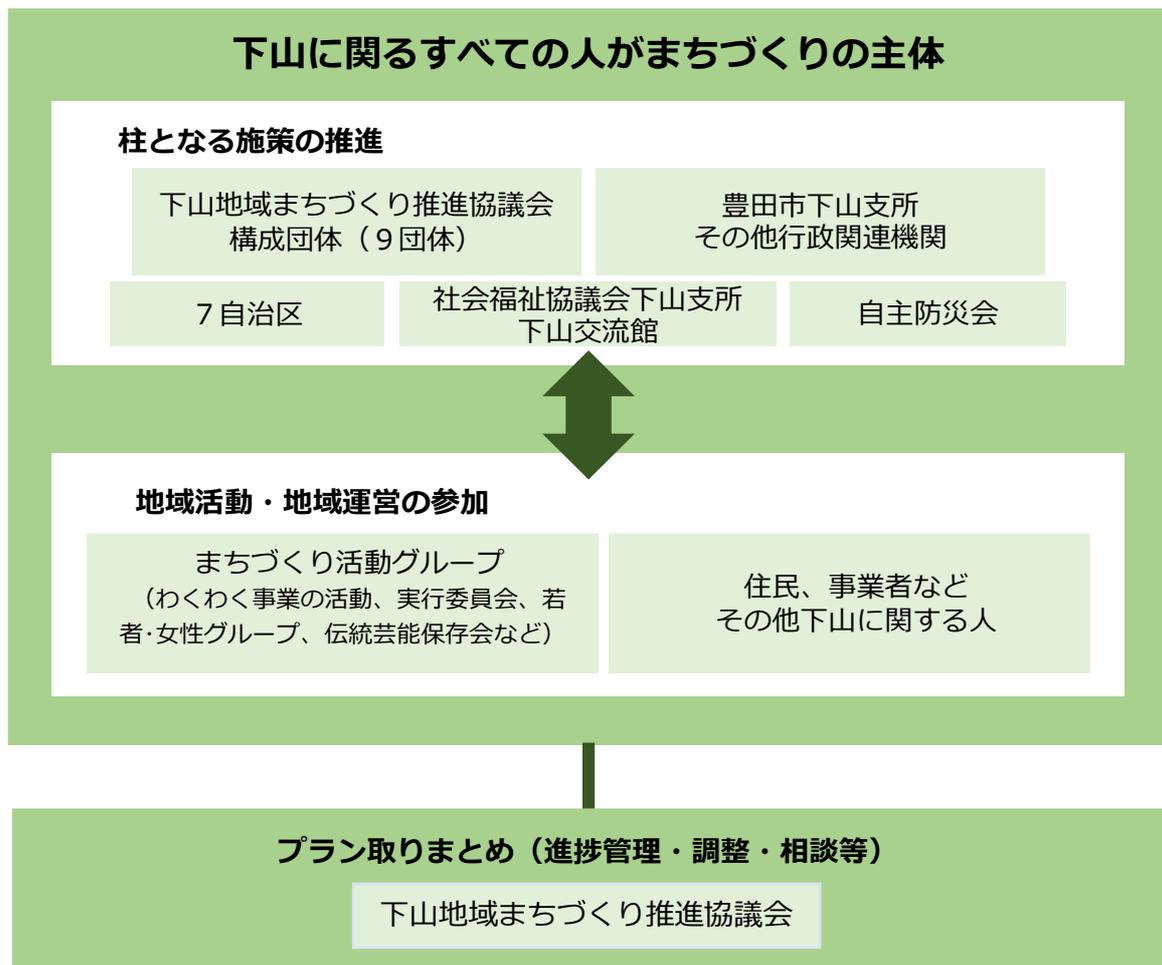
【期間】令和3年度（2021年度）から令和12年度（2030年度）までの10年間



※取組の実施状況や、地域の動向などを見据えながら、5年後に見直しを行います。

4 まちづくりにおける役割

下山に関わるすべての人が役割を持って、連携を図りながら、まちづくりに取り組みます。

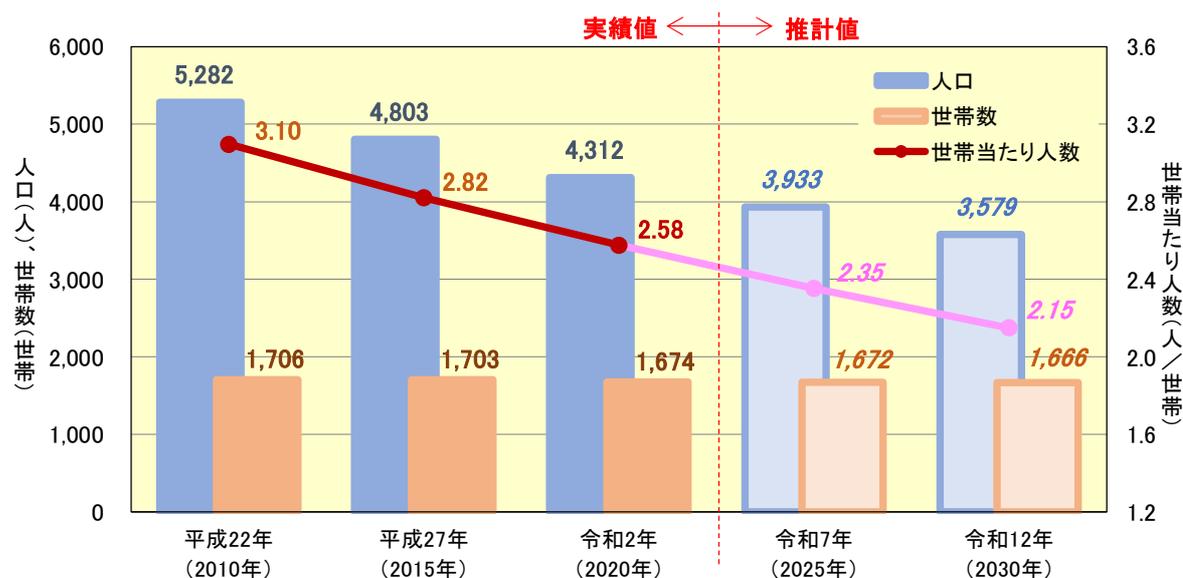


下山の現状と動向

1 人口の状況

(1) 人口・世帯数の推移

- ・人口、世帯数ともにこの10年で減少し、世帯当たり人数は少なくなっています。
- ・このままの傾向が続くと、令和12年には、世帯数はわずかに増加するものの、人口はさらに減少し、世帯あたり人数は、さらに小さくなることが予想されます。

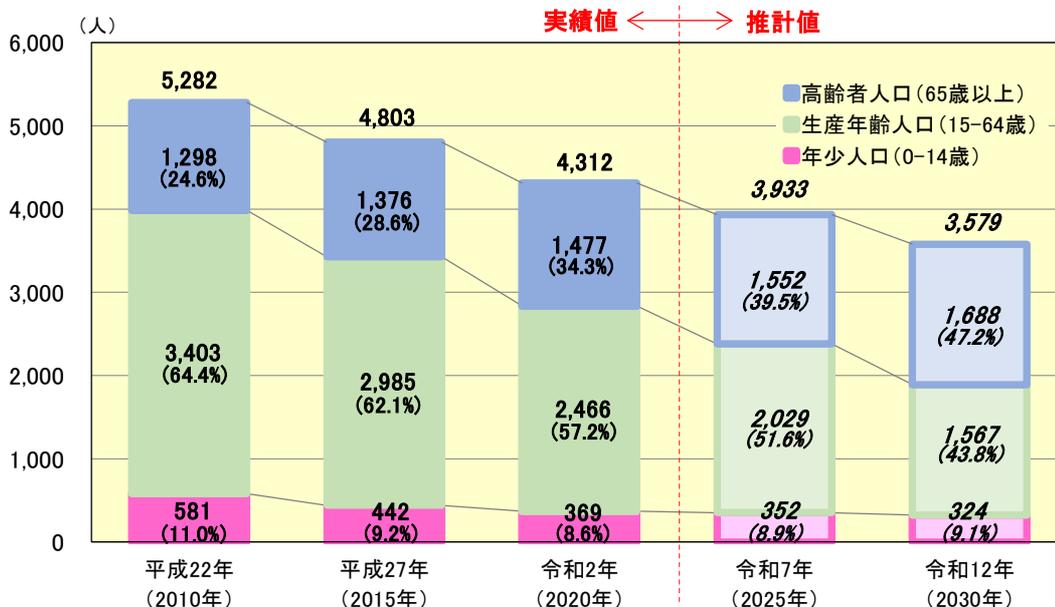


下山の人口、世帯数、世帯当たり人数の推移

(令和2年までは住民基本台帳、令和7年以降は推計、各年10月1日)

(2) 年齢別人口の動向

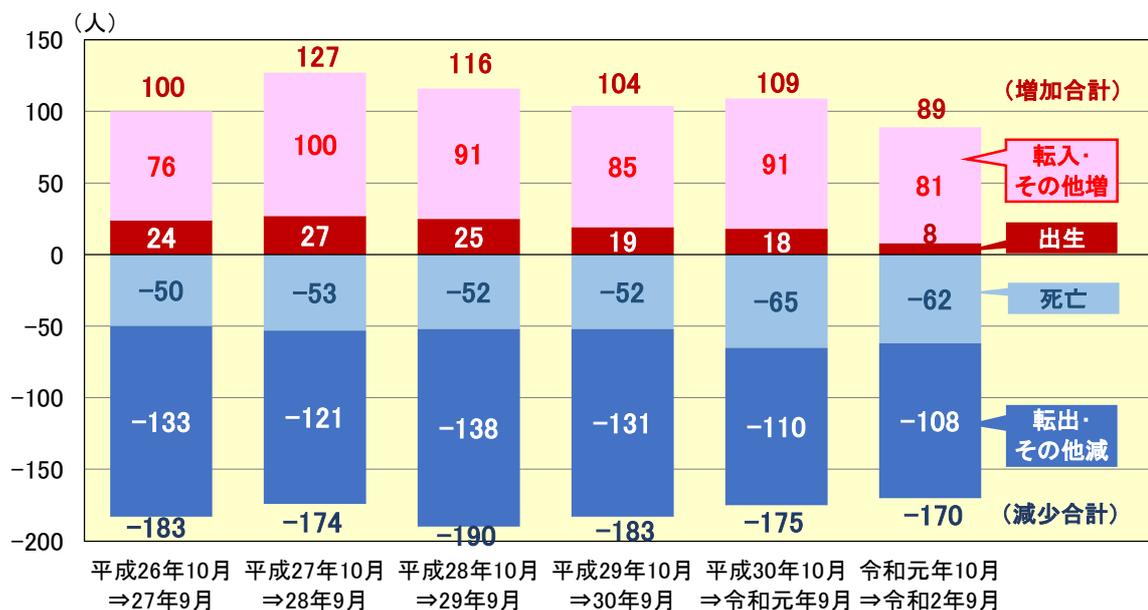
- ・子どもの人口（0～14歳：年少人口）、担い手の人口（15～64歳：生産年齢人口）は減少し、高齢者の人口（65歳以上：高齢者人口）は増加しています。
- ・このままの傾向が続くと、令和12年には、子どもの人口、担い手の人口はさらに減少、高齢者の人口はさらに増加し、高齢者の人口と担い手の人口がほぼ同じになると予想されます。



下山の年齢別人口・割合の推移（令和2年までは住民基本台帳、令和7年以降は推計、各年10月1日）

(3) 定住人口の増減の要因

- ・生まれる人数は8～27人、亡くなる人数は50～65人で推移しています。
- ・転入する人は76～100、転出する人は108～138人で推移していますが、転出と転入の差引のマイナスは小さくなる傾向にあります。



下山の人口増減の要因（住民基本台帳）

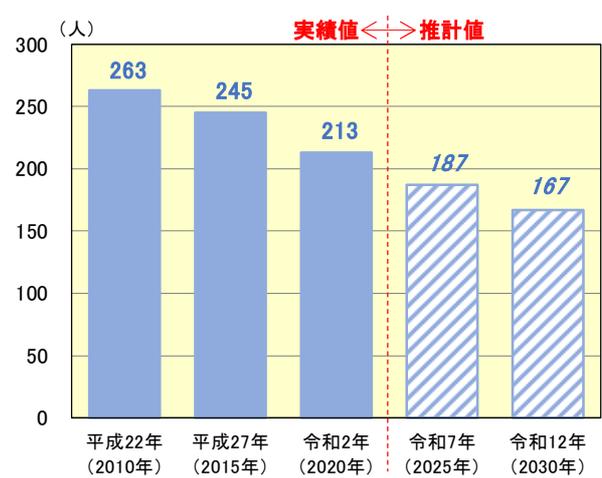
2 自治区の人口の状況

- ・すべての自治区で人口は減少傾向にあり、今後も減少することが予測されます。
- ・65歳以上の高齢化率も、すべての自治区で上昇して40%を上回り、特に阿蔵、田平沢では50%を上回ります。

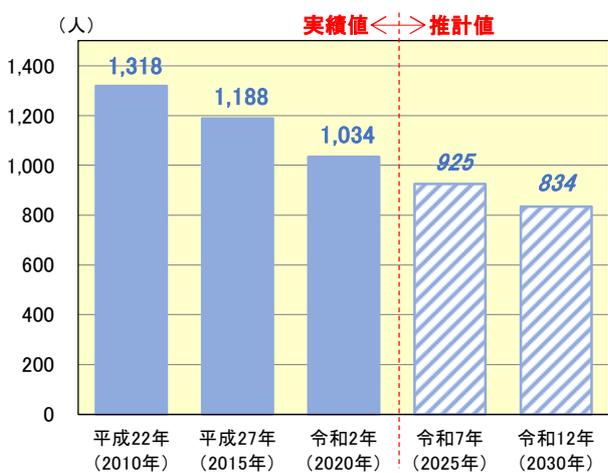
<下山全体>



<阿蔵自治区>



<大沼自治区>



<三巴自治区>



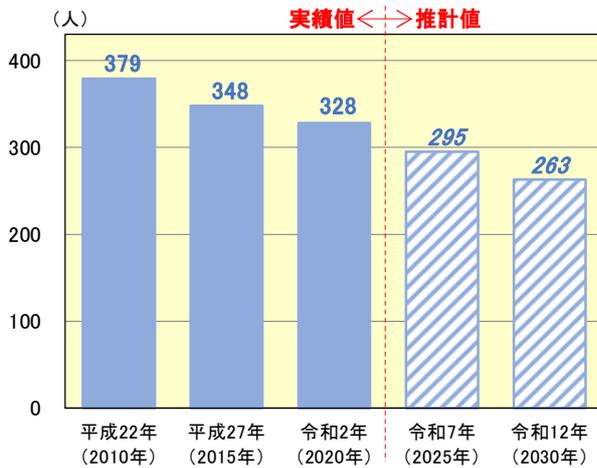
<田平沢自治区>



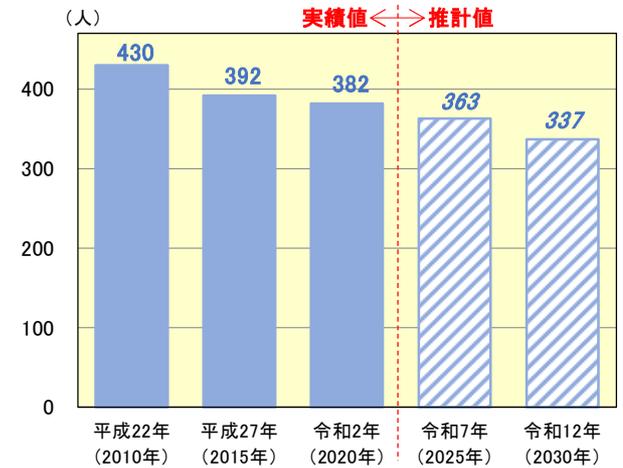
<花山自治区>



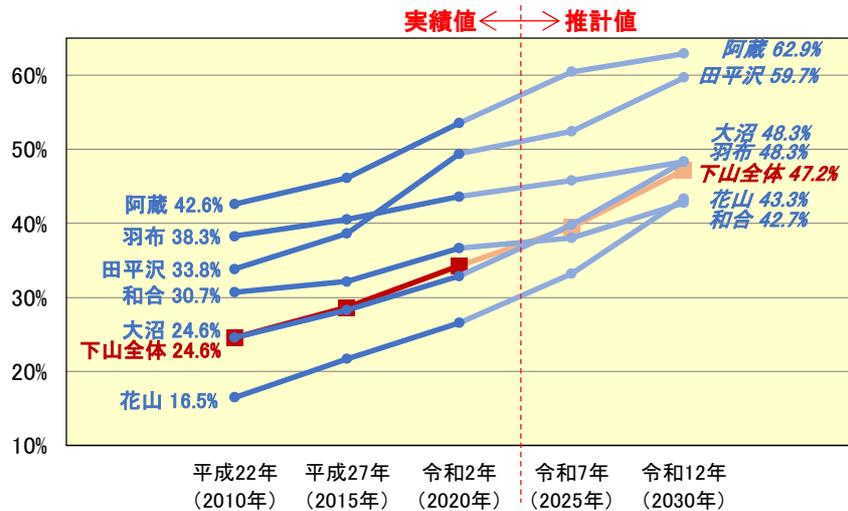
<羽布自治区>



<和合自治区>



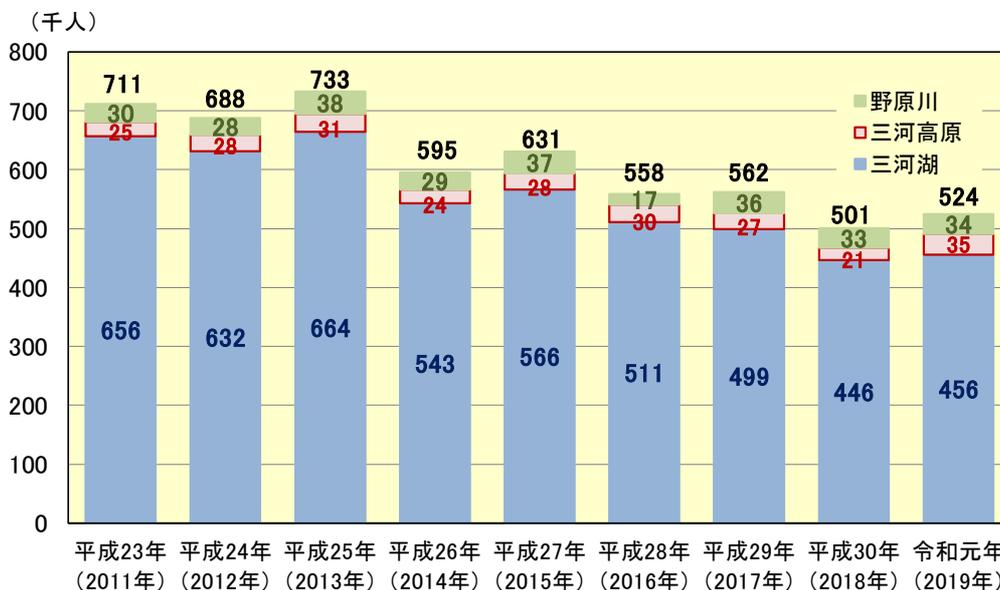
下山全体及び各自治区の人口の推移 (令和2年までは住民基本台帳、令和7年以降は推計、各年10月1日)



下山全体及び各自治区の高齢化率の推移 (令和2年までは住民基本台帳、令和7年以降は推計、各年10月1日)

3 観光入込客数

- ・下山の代表的な観光地である「三河湖」「三河高原」「野原川」の観光客数は、平成26年以降は長期的に減少傾向にあり、平成23年から令和元年にかけて年間約18万7千人減少しています。



三河湖、三河高原、野原川の観光客年間入込客数（愛知県観光レクリエーション利用者統計）

4 事業所の状況

- ・事業所の数、従業者（働く人）の数はいずれも減少傾向にあります。
- ・テストコース「Toyota Technical Center Shimoyama」が本格稼働すると、下山で働く人が約3,300人増えると見込まれます。



下山の民営事業所の事業所数・従業者数の推移（経済センサス）

5 商業の状況

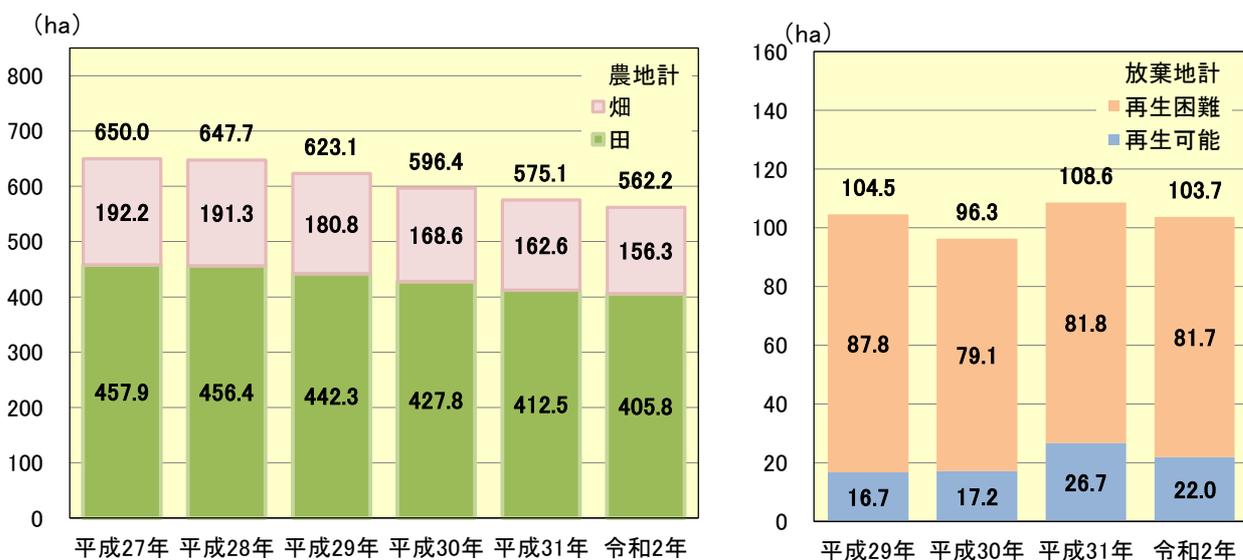
- ・ 商店数は減少傾向にあります。
- ・ 年間商品販売額も、商店数の減少、人口減少の影響もあり、減少しています。



下山の小売業・卸売業の商店数、売上額の推移
(商業統計調査)

6 農業の状況

- ・ 農地面積は減少傾向にあります。令和2年では農地約560haのうち約1/5の100ha余りが耕作放棄地となっています。



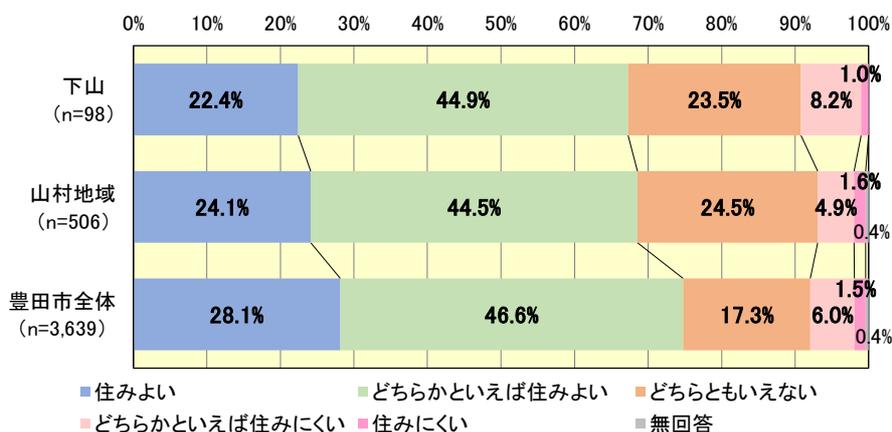
下山の農地面積・耕作放棄地面積の推移 (農地情報公開システム、耕作放棄地対策協議会)
(各年3月1日、平成27年のみ1月1日)

7 住民意識（令和元年度 第2 2回市民意識調査より）

※データにおける「山村地域」は、旭、足助、稲武、小原、下山の回答の合計

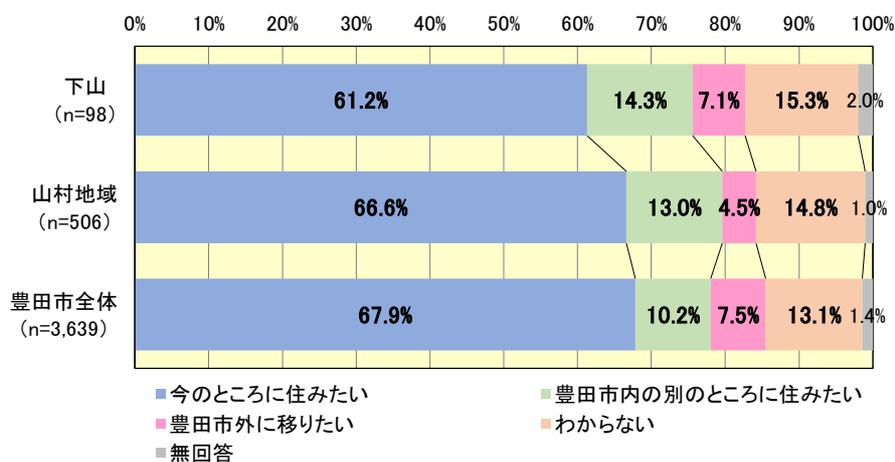
（1）住みやすさ

・「住みよい」「どちらかといえば住みよい」の合計は67.3%であり、豊田市全体、山村地域に比べて少なくなっています。



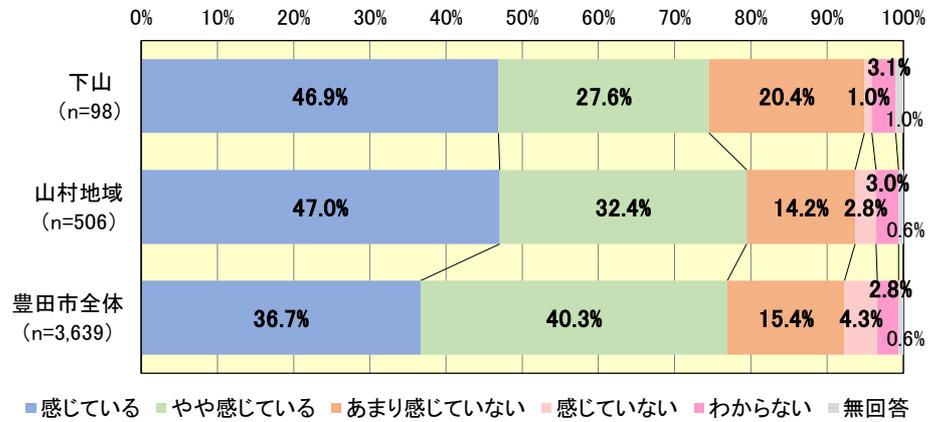
（2）定住意向

・「今のところに住みたい」と回答する人は61.2%であり、豊田市全体、山村地域に比べて少なくなっています。



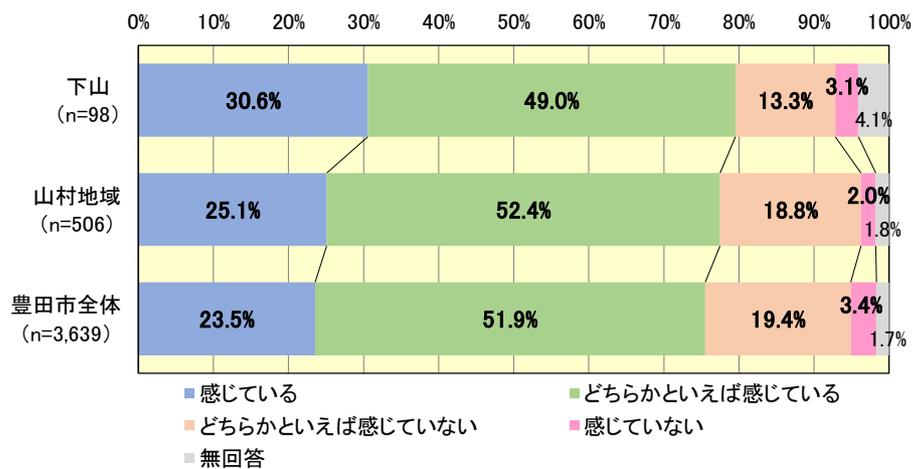
(3) 地域への愛着

・「感じている」「やや感じている」の合計は74.5%であり、豊田市全体、山村地域に比べて少なくなっています。



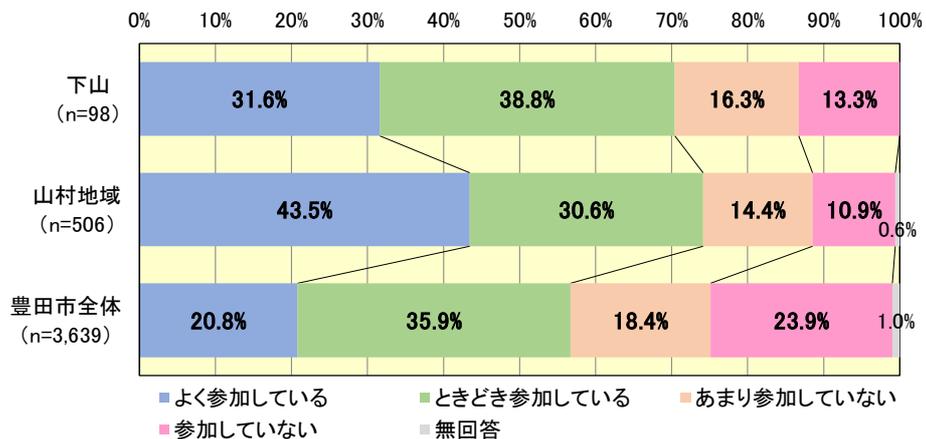
(4) 生きがい

・「感じている」「どちらかといえば感じている」の合計は79.6%であり、豊田市全体、山村地域に比べて多くなっています。



(5) 自治区・地域活動への参加

・「よく参加している」「ときどき参加している」の合計は70.4%であり、豊田市全体、に比べては多いですが、山村地域に比べては少なくなっています。



住民のみなさんからのご意見

下山で活動する団体の会議等に参加し、住民のみなさんが考える下山の課題やなどをお聞きしました。以下に主な意見を紹介します。

<移住・定住促進のための魅力づくり>

- 移住・定住のためには、下山に興味を持ってもらうことが必要。
- Iターン、Uターンの人のから下山の魅力を知ることが必要。
- 住民自身が魅力を見つけ出していくことが必要。
- 移住促進のためには、山や川など自然環境の魅力づくりも重要。
- 移住促進のためには、下山の暮らしのアピールが必要。
- 子育て世代、若者が住みやすいまちづくりをして欲しい。
- 若者が住みたくなるような活気があるまちをつくりたい。
- 若者が外に出ていけないような環境や教育が大切。
- 子どもや孫の世代が住み続けられる地域、各家が継承できる地域にしたい。
- 移住者の受入れを地域でもっと考えていくべき。
- 移住者同士のつながり、出会いの場、移住者向けの環境づくりなどが必要。

<空き地・空き家・宅地の確保>

- 空き家予備軍となる家へのPRを行う。空き家の発掘にはおせっかいな人が必要。
- 宅地確保のためには、地権者から土地提供をしてもらいやすい仕組みが必要。
- 下山の魅力は土地の安さと広さ、農園付き住宅などを供給できるとよい。
- 下山の住まいや土地の情報を集約し、ワンストップで対応することが必要。
- 今後は空き家や農地などの財産管理が問題になる。

<地域づくり、人づくり>

- 人口が減っても困らない、維持できる地域の体制を考えることが必要。
- 今までの延長線上ではない、新しい発想での地域づくりが必要。
- 地域力を高め、地域が盛り上がり協力を行動することが必要。
- 高齢者、女性、若者、子どもの視点でのまちづくりが必要。
- 子どもの声が聞こえる地域づくりが必要。
- まちづくりを実行できる「人」をつくる必要がある。
- 子どもにまちづくりを教えながら、大人が汗をかいているところを見せる。
- 下山の将来に対する危機感を住民で共有する必要がある。
- 行政に頼ってばかりではいけない。住民や地域で何かできるかを考えるべき。
- 住民と企業が一緒になって活動する。地域を応援・協力してくれる外の人を増やす。
- 自治区の自立的運営のためには、適正規模も考えていく必要がある。
- 自治区は担い手不足、下山全体で自治区をお互いに応援していくことも必要。
- 高齢化、少子化、人口減少に対する危機感の温度差が大きい。

<子育て、教育>

- 地域、こども園、小中学校が一体となって子どもを育てる地域にする。
- 若い世代や子育て世代が集まれる場所、子どもが遊べる場所がほしい。
- 嫁で来た人、移住してきた人は、地域の情報を聞く人が見つからない。
- 下山には地域で助け合う環境が残っていて、子育てもしやすいと思う。
- 下山でもっと多様な習いごとができるといい。

<観光>

- SNSなどで地域の魅力を発信し、下山に関わる人づくりを進めていく。
- 人が集まりやすいスポット、イベントを作り、休日の人口増をめざす。
- 下山の各スポットにWi-Fiなどの情報インフラを整備する。
- 三河湖を活性化させる。
- 移住定住よりも下山では観光客などの交流人口の確保に力を入れるべき。

<産業・仕事>

- 産業振興は時間がかかるため、危機感を持って進めることが必要。
- 若い人が住み、働き、商売などをしていく動きができるといい。
- 若者、女性が働ける場づくりが必要。
- 女性の働く場づくり、正社員だけではなく、子育ての合間のパートの仕事が必要。
- 空き家で店を開くなど仕事の場になるといいな。

<農地>

- 現在の農業者で10年後も続けている人はほとんどいないと思う。
- 自分が農業をできなくなった時に引き継ぐ方法を考えておく必要がある。
- 農地や山林が荒れないような継続可能な仕組みづくりを考える。
- 農地や山を管理することの「価値」をつくる必要がある。景観や治水の面でも大切。
- 羽布の棚田は多くの人が見に来ており、地域みんなで草刈もしている。
- 下山の住民や働く人が、休日だけでも農作業や山仕事ができるしくみをつくる。

<安全・安心・生活基盤>

- 災害時に集落や避難所が孤立しないような道路を考えていくことが必要。
- 近所のつながりが希薄になる中で、災害時の安否確認などが課題。
- 子育て世代の移住・定住のためには、バス交通の改善が必要。
- 子どもも安心して乗りやすいしもやまバスにする。
- 免許を返納した高齢者も安心して暮らせる地域にしていく。
- 転入してきた人は、下山の暮らしに不便を感じていない。

下山の10年後の将来像

こども^この声^{こえ}が聞^きこえ、 えが^えお^おく^く笑顔^{えが}で暮^くらせるまち しもやま

10年後のしもやま、どうなっているだろう？

子どもの“わいわい”とした元気な声がいつも聞こえるといいな…

お年寄りのやさしい“ほっこり”した笑顔があふれているといいな…

夢が実現できる“わくわく”するしもやまになるといいな…

地域の人が応援してくれたり、助けてくれたりして“ほっと”できるといいな…

一人ひとりが考えながら、できることを楽しく“こつこつ”と取り組み、みんなでしもやまを盛り上げましょう

10年後の暮らし

- ・ほどよい距離感の近所づきあいでありながら、助け合いにより安心を感じられており、高齢者からも子どもからも笑顔があふれています。
- ・子どもを地域の宝として、こども園、小中学校と住民が協力して子どもを見守っています。そして、子どもの通学風景や友だちと元気に遊ぶ姿が見られます。
- ・下山で暮らしたい移住者の受け入れを各自治区が行い、子どもも増えています。そして、ずっと住んでいる人と移住者の人とが協力し合うことにより、地域が活気づいています。

10年後の地域

- ・人口が減ったり、高齢化が進んでも、地域の状況を考えながら、子どもから高齢者までみんなで協力しながら、自立した地域活動が楽しく続けられています。
- ・様々な人や団体の協力を得ながら、地域の整備や農地の手入れが行われ、みんなが自慢できる美しい風景が保たれています。
- ・地域の伝統、お祭りなどの行事が子どもや孫の世代に大切に引き継がれています。

10年後の私たち

- ・下山のあちこちで、いろいろな人が地域を元気にする取組に挑戦しています。また地域の人とその挑戦をみんなで応援しています。
- ・若者が積極的に意見を言ったり提案をしたり、また年長者もこれまでの経験を若者に伝えたり、助言したりすることにより、伝統を活かしながら新しい取組が、地域一丸となって行われています。
- ・下山に住む人、下山で働く人など、下山に関わる人々が、下山を今よりもっと好きになっています。

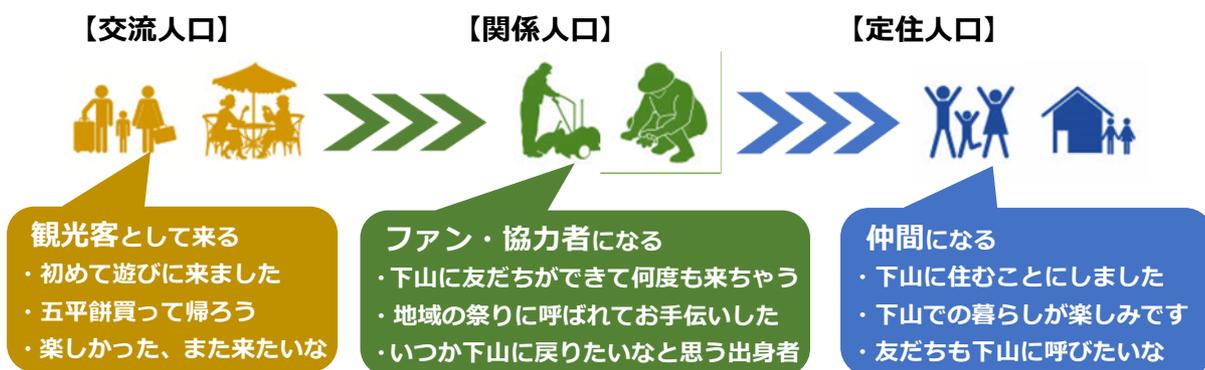
みんなでめざす下山のまちづくりの方向性

下山の10年間のまちづくりは、3つの方向性により進めます。

1

下山に関わる人を増やして活力あるまちづくり

- 「定住人口」を減らさない取組にチャレンジします。
- 観光客などの「交流人口」と住民との交流の機会を積極的につくります。
- 地域活動への参加者の増加をめざして、「関係人口」を増やします。



2

住民主体の地域活動で持続可能なまちづくり

- 住民一人ひとりが地域の運営を考え、住民による自治活動を次代に引き継ぎます。
- まちづくりに関する地域内の団体が、そのあり方や活動内容を見直し、より適正な運営に努めます。
- 自治区と地域の関係団体、行政との連携を強化して、地域活動を活性化させます。

3

「安心感」と「わくわく感」が実感できるまちづくり

- 子どもからお年寄りまで、誰もが安心して生活できる環境をつくります。
- 下山を盛り上げるために「やってみたい」ことを実現できるように、みんなで応援する機運を醸成します。
- 下山地域外からの来訪者が、親しみやすく、楽しめる環境づくりを行います。

まちづくりのテーマ

まちづくりのテーマは、10年後の将来像にある「笑顔（スマイル）」。下山地区に住む人、関係する人、訪れる人のすべてが、「笑顔（スマイル）」になるため、このプランの愛称を「しもやまスマイルプラン」とし、その取組を「しもやまスマイルプロジェクト」として、まちづくりを推進します。

まちづくりの分野別の取組

将来像	分野	施策	
子どもの声が聞こえ、笑顔で暮らせるまちしもやま	1 定住・移住 ~下山を担う仲間を増やそう~	施策 1 下山の暮らしの魅力向上と情報発信の強化 施策 2 空き家・空き地の発掘、利活用の促進 施策 3 地域ぐるみの移住者受け入れ態勢の整備 施策 4 下山への愛着の形成 施策 5 多様な方法での宅地供給	
	生活環境	2 子育て ~子どもはみんなで育てよう~	施策 6 地域で支える子育て環境の充実
		3 教育 ~子どもと一緒にみんなで学ぼう~	施策 7 地域と連携した教育の推進
		4 健康・福祉 ~身体も心も元気で暮らそう~	施策 8 下山の健康づくり・地域福祉の推進
		5 防災 ~災害に負けない地域をつくろう~	施策 9 災害に備えた地域づくり
		6 伝統・文化 ~下山の誇りを受け継ごう~	施策 10 地域の伝統・文化の魅力発信と継承
		7 地域内交流 ~顔の見える地域をつくろう~	施策 11 地域内での交流の促進
	8 観光 ~地域の良いところを発信しよう~	施策 12 観光推進体制の強化 施策 13 観光資源の充実 施策 14 戦略的な情報発信 施策 15 おもてなし環境の整備 施策 16 観光商品化の推進	
	9 産業 ~下山の産業をみんなで支えよう~	施策 17 既存の産業の継承と新しい産業の創出	
	10 農地保全 ~美しい農村風景を守ろう~	施策 18 農地の適正管理の推進	
	11 基盤整備 ~暮らしを守る道路をつくろう~	施策 19 道路整備	
	自治区プラン ~個性を生かした地域をつくろう~		

事業	主な担当団体
事業① 下山の暮らしが見える情報発信の整備【継続】 事業② 定住委員等の情報発信力の向上【拡充】 事業③ 地域内の景観整備【継続】 事業① 空き家・空き地情報の整理及び活用【継続】 事業② 各家庭で話し合う仕組みの構築【新規】 事業③ 管理不全な空き家の解消【新規】 事業① 移住者を受け入れる住民意識の醸成【拡充】 事業② 移住者サポート体制の整備【拡充】 事業③ 多様な世代からの意見聴取と意見の反映【継続】 事業① 地域の愛着形成【継続】	里楽暮らしもやま会、各自治区、 地域学校共働本部、豊田市下山支所
事業① 空き地バンクや2戸2戸作戦の活用【継続】 事業② 居住促進地区の農振除外緩和制度の活用【継続】 事業③ 土地利用計画（行政計画）による宅地供給の推進【新規】	下山交流館、子育て支援センター、 まどいの丘（社会福祉協議会）、 子育てママの団体、豊田市地域保健課、 豊田市下山支所、
事業① 空きスペースを活用した親子の集いの場の整備【新規】 事業② 交流館講座の活用による子育て支援【拡充】 事業③ 子育て世代と支援サークルとのコーディネート【拡充】 事業④ プレーパークなど遊び場・交流の場の創出【新規】	地域学校共働本部、各小中学校
事業① 地域団体を講師とした勉強会、意見交換会の実施【継続】 事業② 職場体験、地域イベントを通じて地域を体験する機会の創出【継続】 事業③ 地域の課題解決の取組の推進【継続】	スポーツクラブ、地区コミュニティ会議 社会福祉協議会、豊田市地域保健課
事業① 健康づくり意識の向上【継続】 事業② 運動習慣の定着【継続】 事業③ 食習慣の改善【継続】 事業④ 社会参加の充実【継続】 事業⑤ 高齢者世帯の把握【継続】 事業⑥ 地域住民の福祉理解の促進【継続】 事業⑦ 地域の居場所づくりの支援【継続】	自主防災会、まちづくり協議会
事業① 防災情報の伝達強化【拡充】 事業② 防災リーダーの養成【新規】 事業③ 災害対策情報の集約【拡充】 事業④ 次世代自動車の外部給電の普及【新規】	阿蔵地域念仏踊り保存会、下山三河万歳保存会、 三巴地域巴太鼓保存会、大沼雅楽会、豊田市下山支 所、郷土史を学ぶ会、こども園・小中学校
事業① 伝統芸能の継承【新規】 事業② 郷土資料館の見直し【新規】 事業③ 民話の伝承【新規】	地区コミュニティ会議、里山協議会 新規活動団体、下山交流館、豊田市下山支所
事業① 地域行事の開催【継続】 事業② 新たな活動団体の支援【新規】 事業③ 情報コーナーの整備【新規】	下山観光会議、香恋の里しもやま観光協会、 株式会社香恋の里、ツーリズムとよた、 豊田市下山支所
事業① コンセプトの共有【新規】 事業② 地域住民の巻き込み【新規】 事業③ 観光会議の拡充【新規】 事業① 観光資源の整理・掘り起こし【拡充】 事業② 観光資源の磨き上げ【拡充】 事業③ 体験・アクティビティの充実【新規】 事業① 情報発信体制の整備【新規】 事業② 情報発信力の向上【新規】 事業③ 利用者に合わせた情報発信【新規】 事業① 各店舗の魅力向上【拡充】 事業② 景観整備・利便性の向上【新規】 事業③ 市観光施設の機能整理【拡充】 事業① 体験メニューの掲載・販売【新規】 事業② 事業者間連携の強化【新規】 事業③ 出展・インバウンド対応【新規】	下山商工会、地区内各店舗、 株式会社香恋の里、豊田市下山支所
事業① 地区内の商工業者の支援【継続】 事業② トヨタテクニカルセンター下山に関連する仕事の受注【継続】 事業③ トヨタテクニカルセンター下山に関連する企業誘致【新規】 事業④ 特産品のPR及び特産品を活用した商品開発【継続】	下山地域営農協議会
事業① 農作業受委託システムの普及【拡充】	豊田市下山支所、愛知県、基盤整備部会、 各自治区、地域会議
事業① 交通量増加による影響調査・検討【継続】 事業② 要望路線の進捗管理と新たな路線計画の検討【拡充】 事業③ 既存道路の舗装、修繕による路線の延命化【継続】 事業④ 支障木の伐採【継続】	各自治区



1 定住・移住 ～下山を担う仲間を増やそう～

<現状と課題>

- ・平成23年に発足した定住推進組織「里楽暮住（リラックス）しもやま会」を中心に定住・移住の推進に向けた様々な取組を行っています。定住意識の向上や移住者の確保などの活動を着実に進めているものの、定住人口の減少は続いています。
- ・出生数の減少に加えて、進学、就職、結婚を機会とした転出が多く、子どもや若年世代の減少が著しくなっていることから、単に人数を確保するだけでなく、世代バランスを適切するため、子育て世代を増やす取組が必要となっています。
- ・最近では下山の地域性を気に入って空き家等に入居する移住世帯も増えており、この流れを定着させていくことが求められます。

<主な施策と取組>

施策1 下山の暮らしの魅力向上と情報発信の強化

(めざす状態) 子育て世代を主なターゲットとして、通学、子育て、買い物など、下山での日常生活に関する暮らしの情報が発信され、定住や移住を考える人の参考になっています。

(取組事業)

	事業名及び主な取組団体	事業概要
事業①	下山の暮らしが見える情報発信の整備【里楽暮住、下山支所】	チラシや冊子などの紙媒体やSNSなどの電子媒体により、下山の暮らしの魅力を発信します。
事業②	定住委員等の情報発信力の向上【里楽暮住、下山支所】	地区内には、定住移住に関する住民意識を高めるPR活動を実施し、地区外には、空き家・空き地物件のPRを行います。
事業③	地域内の景観整備【各自治区】	地域の美しい景観を維持するため、環境美化活動や植栽活動などを行います。

施策2 空き家・空き地の発掘、利活用の促進

(めざす状態) 住民に使われなくなった住宅や土地が速やかに提供され、地域の定住・移住促進のために活用されています。

(取組事業)

	事業名及び主な取組団体	事業概要
事業①	空き家・空き地情報の整理及び活用 【里楽暮住、各自治区】	空き家や空き地の再調査を行い、情報をデータベース化します。
事業②	各家庭で話し合う仕組みの構築 【里楽暮住、下山支所】	家や土地の将来について家族の話し合いを促すための仕組みをつくります。
事業③	管理不全な空き家の解消 【里楽暮住、各自治区】	空き家の適正管理のためのPRや片づけイベントを実施します。

施策3 地域ぐるみの移住者受け入れ態勢の整備

(めざす状態) 移住してきた人が地域の生活やコミュニティに早くなじむように、地域ぐるみで生活情報を提供し、困りごとの相談に乗っています。また、特に子育て世代の移住者の受け入れに自治区が積極的に取り組んでいます。

(取組事業)

	事業名及び主な取組団体	事業概要
事業①	移住者を受け入れる住民意識の醸成 【里楽暮住、各自治区】	里楽暮住委員や地域住民を対象にした移住対策勉強会を実施する。希望地区には、住民意識アンケートを実施します。
事業②	移住者サポート体制の整備 【里楽暮住、各自治区】	移住者との交流会の実施など、移住者に対する生活サポートのしくみをつくります。
事業③	多様な世代からの意見聴取と意見の反映 【里楽暮住、下山支所】	多様な世代、主に女性との意見交換会の開催及び意見に基づいた事業を実施します。

施策4 下山への愛着の形成

(めざす状態)「WE LOVE しもやま」意識が醸成され、下山に住み続けたい、住んでみたいと思う人が増えています。

(取組事業)

	事業名及び主な取組団体	事業概要
事業①	地域の愛着形成 【里楽暮住、共働本部】	「WE LOVE しもやま」グッズを作成し、グッズを活用したPRを実施する。 中学生との意見交換会を開催し、中学生の意見を反映させた事業を実施します。

施策5 多様な方法での宅地供給

(めざす状態) 下山のいたるところで、様々な方法で宅地や空き地が提供・活用されています。

(取組事業)

	事業名及び主な取組団体	事業概要
事業①	空き地バンクや2戸2戸作戦の活用 【下山支所】	空き地情報バンクや2戸2戸作戦の事業内容を住民や所有者に周知します。
事業②	居住促進地区の農振除外緩和制度の活用【下山支所】	居住促進地区における農振除外緩和制度を所有者等に周知します。
事業③	土地利用計画（行政計画）による宅地供給の推進【下山支所】	農振除外のための行政計画を策定し、除外後農地の宅地活用を推進します。

※各施策の取組事業は、【 】に記載する団体が主な担い手になって実施しますが、その他の団体やグループによる創意工夫あふれる取組も期待しています。

※住民のみなさんも、一人ひとりが下のような取組をしてみてください。

<一人ひとりの住民のみなさんの取組例>

- 下山の暮らしの魅力を知り合いに伝える。
- 下山の魅力について、家族と話してみる。
- 自分の家の将来を家族と話し合う。
- 近所に移住してきた家族がいたら、声をかける。 など



2 生活環境 子育て ~子どもはみんなで育てよう~

<現状と課題>

- ・子どもの人口、子育て世代の人口の減少が続いています。この影響で、子育て世代の保護者どうしの仲間が少なくなっています。
- ・生活様式や地域コミュニティの変化により、子育てに関して支え合ったり情報交換したりできる機会が少なくなっています。
- ・子どもがのびのびと育つ環境を確保するとともに、育児や子育てに関して地域で支えあう環境や仕組みをつくる必要があります。

<主な施策と取組>

施策6 地域で支える子育て環境の充実

(めざす状態) 地域住民のみんなが子どもや親を応援しており、子育て家族にとって住みやすい下山が実現しています。

(取組事業)

	事業名及び主な取組団体	事業概要
事業①	空きスペースを活用した親子の集いの場の整備【交流館、まどいの丘】	交流館やまどいの丘などに、親子が集うことができる場を整備します。
事業②	交流館講座の活用による子育て支援【交流館、地域保健課】	子育て世代のニーズ調査を行い、希望する子育て支援講座を実施します。
事業③	子育て世代と支援サークルとのコーディネート【交流館、子育て支援センター】	子育てサポーター養成講座の実施とともに、子育てサロンを開催します。
事業④	プレーパークなど、遊び場・交流の場の創出【子育てママの団体、下山支所】	下山支所の活用も視野に入れ、子どもの遊び場及び子育て世代の交流の場の整備を検討します

(子育てに関連して地域で行われている取組)

- ・料理や懇談会を通じた情報交換による交流【かれんママ】
- ・子どもを遊ばせながら、子育ての情報交換【かれんキッズ】
- ・絵本の読み聞かせ【ひなたぼっこ】
- ・ヤギを活用した触れ合いの場の提供【しもやまわくわくファーム】
- ・モデルロケットを通じた子どもの健全育成【しもやまロケットプロジェクト】

※各施策の取組事業は、【 】に記載する団体が主な担い手になって実施しますが、その他の団体やグループによる創意工夫あふれる取組も期待しています。

※住民のみなさんも、一人ひとりが下のような取組をしてみてください。

<一人ひとりの住民のみなさんの取組例>

- 近所の子どもや子育て家族に、日頃からあいさつ、声掛けする。
- 子どもの通学や遊びを見守ったり、不審者などから守る。
- 子育ての知恵や工夫を子育て家族に伝える。 など



3 生活環境 教育 ~子どもと一緒にみんな学ぼう~

<現状と課題>

- ・児童、生徒数が少ないことは、きめ細かな教育ができる一方、集団生活の体験や学校行事や課外活動への制約が生じています。
- ・児童、生徒数の減少を防ぐとともに、様々な制約や課題に対応するため、地域全体で学校や子どもの教育を支えていく仕組みが必要となっています。

<主な施策と取組>

施策7 地域と連携した教育の推進

(めざす状態) 小中学校と地域が協力して下山の子どもたちの教育に取り組むことにより、学校の授業や行事も円滑に行われ、地域の様々な資源も教育に活用されています。

(取組事業)

	事業名及び主な取組団体	事業概要
事業①	地域団体を講師とした勉強会、意見交換会の実施【共働本部、各小中学校】	里楽暮住や社協など地域団体を講師に迎え、勉強会や意見交換会を開催します。
事業②	職場体験、地域イベントを通じて地域を体験する機会の創出【共働本部、各小中学校】	地域行事へのボランティア参加を推進します。
事業③	地域の課題解決の取組の推進【共働本部、各小中学校】	地域の現状から課題を整理し、その課題解決の取組を実施します。

(教育に関連して地域で行われている取組)

- ・子どもたちが地域に関わる事業を実施【地域環境整備隊】
- ・学芸会背景画作成、登下校見守りボランティアなど【花山小学校学校共働本部】
- ・草刈りなどの学校整備【大沼小学校学校共働本部】
- ・読み聞かせボランティア、運動会・マラソン大会の見守り、地域内の指導者を紹介する学習支援【巴ヶ丘小学校学校共働本部】
- ・スクールバスの運行要望【花山小学校】

※各施策の取組事業は、【 】に記載する団体が主な担い手になって実施しますが、その他の団体やグループによる創意工夫あふれる取組も期待しています。

※住民のみなさんも、一人ひとりが下のような取組をしてみてください。

<一人ひとりの住民のみなさんの取組例>

- 子どものいない世帯も含めて、みんなが子どもや学校に関心を持って、学校運営に協力しています。 など



4 生活環境 健康・福祉 ~身体も心も元気で暮らそう~

<現状と課題>

- ・健康づくりの取組に対する意識が低く、十分な取組が行われているとは言えない状況です。
- ・豊田市全域と比較しても、運動習慣が少なく、また、BMI（肥満度を表す体格指数）も高い状態にあるため、運動の習慣化や食生活の改善が必要です。
- ・高齢者の人口が増加しています。今後は75歳以上の後期高齢者の増加とともに、高齢者のひとり暮らし、高齢者の夫婦のみの世帯の増加が予想されます。
- ・高齢者も地域の中で安心して暮らすことができる環境が必要です。このため、高齢者の生活を地域ぐるみで支え、見守るしくみづくりが求められます。
- ・長寿命化が進む中で、高齢者がいつまでも健康で自立した生活を送る「健康寿命」を伸ばすことが必要です。

<主な施策と取組>

施策8 下山の健康づくり・地域福祉の推進

(めざす状態) 高齢者が地域の中で健康づくりや生きがいをづくりに取り組んでいます。また、近所の高齢者や障がいを持つ人をみんなで見守るとともに、老若男女のすべての住民が互いに「支える」「支えられる」関係になり、安心して住み続けられる環境が整っています。

(取組事業)

	事業名及び主な取組団体	事業概要
事業①	健康づくり意識の向上 【コミ、地域保健課】	自治区等での健康講座や健康チェックを実施します。
事業②	運動習慣の定着 【コミ、スポーツクラブ】	体育大会やグランドゴルフ大会などのスポーツイベントを実施します。
事業③	食生活の改善 【コミ、地域保健課】	管理栄養士による講座の開催や食に関する健康チェックを実施します。
事業④	社会参加の充実 【コミ、地域保健課】	健康に関するボランティアを育成します。
事業⑤	高齢者世帯の把握 【社協】	2人暮らし高齢者世帯を把握し、認知症機能低下防止や介護予防につなげます。

事業 ⑥	地域住民の福祉理解の促進 【社協】	地域でのボランティア活動を通して、地域福祉の担い手を育成します。
事業 ⑦	地域の居場所づくりの支援 【社協】	サロンなど地域での居場所づくりの活動を支援する。地域で始めようとする新たな居場所づくりの支援を行います。

(健康・福祉に関連して地域で行われている取組)

- ・主に高齢者を対象とした地域サロンの実施【里いものおうち、笑母会（田平沢）】
- ・高齢者の外出動向や買い物代行サービスの実施【大沼タクシー】
- ・認知症カフェの実施【Sボランティアサークル】

※各施策の取組事業は、【 】に記載する団体が主な担い手になって実施しますが、その他の団体やグループによる創意工夫あふれる取組も期待しています。

※住民のみなさんも、一人ひとりが下のような取組をしてみてください。

<一人ひとりの住民のみなさんの取組例>

- 近所の高齢者や障がいを持つ人のことを理解して、見守っています。
- 近所の人のお生活の小さな困りごとには、できる範囲で手伝っています。 など



5 生活環境 防災 ～災害に負けない地域をつくろう～

<現状と課題>

- ・大規模地震の発生確率が高まっているとともに、台風や大雨も増えており、災害への備えをより一層充実させることが求められます。
- ・下山全体で災害に強い地域づくりを行うとともに、安全な避難場所や避難経路の確保、ハザードマップの普及・活用、災害発生時の連絡体制づくり、支援が必要な人への対応など、地域主体での防災対策の強化も必要となっています。

<主な施策と取組>

施策9 災害に備えた地域づくり

(めざす状態) 日頃から災害に対する備えを地域ぐるみで行っているため、災害発生時の連絡体制、避難誘導、支援を要する人の対応などが円滑に行われ、人や家屋の被害を最小限に抑えています。

(取組事業)

	事業名及び主な取組団体	事業概要
事業①	防災情報の伝達強化 【自主防災会、まち協】	防災ラジオを活用して、防災情報を効果的に住民等に伝達します。
事業②	防災リーダーの養成 【自主防災会、まち協】	防災リーダーの専任への移行により自主防災会の人材を強化し、情報交換会を実施します。
事業③	災害対策情報の集約 【自主防災会、まち協】	災害時に活用できる人材や資器材に関する情報を収集し、住民等に周知します。
事業④	次世代自動車の外部給電の普及 【自主防災会、まち協】	次世代自動車の外部給電設備の設置に対する普及活動を実施します。

(防災(防犯)に関連して地域で行われている取組)

- ・自主防災活動の支援【消防団第8方面隊】
- ・登下校時及び夜間における防犯パトロールの実施【下山パトロール隊】

※各施策の取組事業は、【 】に記載する団体が主な担い手になって実施しますが、その他の団体やグループによる創意工夫あふれる取組も期待しています。

※住民のみなさんも、一人ひとりが下のような取組をしてみてください。

<一人ひとりの住民のみなさんの取組例>

- ハザードマップなどを見て地域の災害危険性を認識し、災害に備えます。
- 災害発生時には自分や家族の身を守るとともに、近所の支援が必要な人のサポートも行います。 など



6 生活環境 伝統・文化 ～下山の誇りを受け継ごう～

<現状と課題>

- ・阿蔵地域念仏踊り、大沼雅楽、下山村の三河万歳、黒坂の祭り囃子をはじめとして、下山では歴史的にも価値の高い多くの伝統芸能が行われています。また各地区には古くから伝わる民話があり、発掘・伝承活動も行われています。
- ・伝統芸能については、これまでは地域が中心となって継承されてきましたが、担い手が高齢化しており、次の世代に向けて継承できるかが懸念されます。民話についても今後の伝承方法が課題になっています。
- ・これらの伝統芸能や民話の価値を住民等が共有するとともに、各地区の伝統芸能や民話を下山全体で継承していくことが求められます。

<主な施策と取組>

施策 10 地域の伝統・文化の魅力発信と継承

(めざす状態) 各地区の伝統芸能の価値や魅力が再認識され、若い世代も関わりながら、地域ぐるみで継承されています。また、地域の文化が後世に語り継がれ伝承されています。

(取組事業)

	事業名及び主な取組団体	事業概要
事業①	伝統芸能の継承 【下山支所、各保存会等】	市が指定する4つの無形民俗文化財について、デジタルアーカイブを行います。
事業②	郷土資料館の見直し 【下山支所、郷土史を学ぶ会】	香恋の館の郷土資料館の展示を、下山ならではの文化を発信できる内容に見直します。
事業③	民話の伝承 【下山支所】	紙芝居を作成して、下山の民話を子どもたちに語り継ぎます。

(伝統に関連して地域で行われている取組)

- ・民話の探訪【各小学校】
- ・念仏踊り、雅楽、三河万歳、祭り囃子の実施・保存【各保存会など】

※各施策の取組事業は、【 】に記載する団体が主な担い手になって実施しますが、その他の団体やグループによる創意工夫あふれる取組も期待しています。

※住民のみなさんも、一人ひとりが下のような取組をしてみてください。

<一人ひとりの住民のみなさんの取組例>

- 念仏踊り、雅楽、三河万歳、祭り囃子などを観に行ってみます。
- 他の伝統行事や民話についても、地域で価値を再認識して、次の世代に語り継いでいきます。 など



7 生活環境 地域内交流 ~顔の見える地域をつくろう~

<現状と課題>

- ・下山の良さの一つに、地域のコミュニティ、住民同士のつながりがあります。下山での安全・安心の生活には、これらのコミュニティやつながりは不可欠です。
- ・最近では、通勤者の増加や生活様式の多様化などにより、住民同士が交流する機会が減少し、つながりが希薄化してきているといわれています。
- ・このため、地域の住民同士がおしゃべりしたり、一緒に活動する機会を増やしていくとともに、下山で働く人や関係する人も交えた、地域内の交流を活発化することが求められます。

<主な施策と取組>

施策 11 地域内での交流の促進

(めざす状態) 下山全体や各自治区のイベントに子どもからお年寄りまで多くの人に参加し、井戸端会議したり、お互いに近況報告するなど、みんなが楽しく交流しています。

(取組事業)

	事業名及び主な取組団体	事業概要
事業①	地域行事の開催 【地区コミュニティ会議】	下山全体での地区体育大会や交流館ふれあいまつりなどの行事を継続的に実施します。
事業②	新たな活動団体の支援 【下山支所・新規活動団体】	新たな取組を実施する団体の活動を支援します。
事業③	情報コーナーの整備 【下山支所・交流館】	下山支所及び交流館のロビー等に情報コーナーを設置します。

(地域内交流に関連して地域で行われている取組)

- ・楽しく歌い交流促進【下山コーラスささゆり】
- ・フラダンスを通じた交流促進【結花】
- ・パッチワークキルトの実施【なごみの会】
- ・手編み作品の作成【手編みサークル】
- ・写真技術の向上及び地区内での撮影【フォトサークルSMY】
- ・交流館の図書室の利用促進【書架係(シヨッカー)】
- ・ササユリの保護及び育成【ささゆり下山保存会】
- ・囲碁や将棋を楽しみながらふれあう【下山囲碁・将棋クラブ】
- ・友情を深め、品位を高め、明るい人生を送る【水曜会】
- ・食をテーマとした女性の交流の機会の創出【地域づくり女性活動隊】
- ・植栽による景観整備と地域内交流の実施【土々目木クラブ】

- ・広場の活用による多世代の交流の場の整備【花一・よらまい会】
- ・ロウバイの植栽による多世代の憩いの場づくり【大沼まちづくり部会（塚本地区）】
- ・ハナモモの植栽による交流事業【ホットチョットと田平沢小助隊】
- ・どろんこサッカーを通じた世代間交流【Do It 花山】
- ・スポーツを通じて親睦を深める事業を実施【下山スポーツフェスタ実行委員会】

※各施策の取組事業は、【 】に記載する団体が主な担い手になって実施しますが、その他の団体やグループによる創意工夫あふれる取組も期待しています。

※住民のみなさんも、一人ひとりが下のような取組をしてみてください。

<一人ひとりの住民のみなさんの取組例>

- 地域のイベントの開催や運営に、できる範囲で協力します。
- 下山のおまつりやイベント、自治区の行事に参加し、自分と違う世代も含めて、多くの人と話をしてみます。 など



8 観光 ～地域の良いところを発信しよう～

<現状と課題>

- ・下山地区には、三河湖や三河高原などの自然資源、下山五平餅や下山茶などの特産品、香恋の館や山遊里などの観光施設を有しています。また、釣りやマウンテントレイル、ソーセージづくりなどの体験メニューを有しています。
- ・豊富な観光資源を有しているにも関わらず、観光入込客数は伸び悩んでおり、観光資源の整理や磨き上げ、認知度向上のために適切な情報発信が求められます。
- ・来訪者に対する観光案内やおもてなしなど、地域で一体となって観光振興に取り組む体制づくりが求められます。

<主な施策と取組>

施策 12 観光推進体制の強化

(めざす状態) コンセプトを下山地区全体で共有し、観光まちづくりを進める体制を構築しています。

(取組事業)

	事業名及び主な取組団体	事業概要
事業①	コンセプトの共有 【観光会議、観光協会】	<ul style="list-style-type: none"> ・コンセプトが来訪者に認識されるように、ロゴや旗、ポスターなどを作成し、地区全体で活用します。 ・観光によるまちづくりを推進するため、コンセプトを地域住民や事業者・団体に浸透させます。
事業②	地域住民の巻き込み 【ラリーイベント実行委員会、香恋の里、観光会議、観光協会、下山商工会】	<ul style="list-style-type: none"> ・観光事業者ではなくても気軽に体験や販売、ボランティアに参加できる機会を設け、下山地区にはない新しい魅力を提供します。
事業③	観光会議の拡充 【観光会議】	<ul style="list-style-type: none"> ・プラン実施のために、観光会議委員の増員や部会等の組織化等を行います。

施策 13 観光資源の充実

(めざす状態) アクティビティを中心として、観光資源を整理・磨き上げしています。

(取組事業)

	事業名及び主な取組団体	事業概要
事業①	観光資源の整理・掘り起こし 【観光協会、観光会議、香恋の里】	・下山地区の観光資源の整理するため、地域内の調査を行い、主な観光資源について詳細を洗い出します。
事業②	観光資源の磨き上げ 【観光会議、観光協会】	・各観光資源の長所や特徴をまとめ、他地域と比較して優位性を見込める観光資源を選定し、磨き上げを行います。
事業③	体験・アクティビティの充実 【観光会議、観光協会、三河湖共栄会、三河湖漁協組合、三河湖ボートクラブ】	・下山地区の体験・アクティビティを調査し、三河高原アドベンチャーの充実を図ります。 ・三河湖や三河高原を活用した定例アクティビティを充実させます。 ・コンセプトにふさわしい新規体験・アクティビティを拡充します。

施策 14 戦略的な情報発信

(めざす状態) 情報発信体制を構築し、利用者の属性やニーズに合った適切な情報を発信しています。

(取組事業)

	事業名及び主な取組団体	事業概要
事業①	情報発信体制の整備 【観光協会、香恋の里】	・地域の観光情報について、ホームページや SNS を活用して日常的に情報発信ができる仕組みを構築します。
事業②	情報発信力の向上 【観光会議、観光協会、下山支所】	・観光事業者を対象に、旅行クチコミサイトや SNS 活用の重要性を共有するとともに、具体的な操作方法の講習会を定期的に開催します。
事業③	利用者に合わせた情報発信 【観光協会、観光会議、香恋の里】	・利用者の属性に合わせた適切な情報発信を検討し、実施します。

施策 15 おもてなし環境の整備

(めざす状態) 観光施設・店舗等の機能を充実させ、観光スポットの魅力的な景観を維持・整備しています。

(取組事業)

	事業名及び主な取組団体	事業概要
事業①	各店舗の魅力向上 【観光協会、下山商工会、下山支所】	・施設・店舗等の清潔感・接客サービスの向上
事業②	景観整備・利便性の向上【観光会議、観光協会、下山支所】	・ラリージャパンに向けた景観整備 ・観光スポットの整備 ・観光における道路等の整備・要望
事業③	市観光施設の機能整理 【観光協会、観光会議、香恋の里、下山支所】	・香恋の館の観光案内、アクティビティ・体験、伝統文化等の拠点化 ・山遊里の地産地消の拠点化、地域商社化 ・三河湖観光センターの観光案内、PR機能整備 ・三河湖園地の活用 ・観光施設の現状分析と課題の整理、評価と改善、及び施設整備

施策 16 観光商品化の推進

(めざす状態) 下山地区の観光資源を魅力的な観光商品として販売しています。

(取組事業)

	事業名及び主な取組団体	事業概要
事業①	体験メニューの掲載・販売 【観光協会、ツーリズムとよた】	・体験メニューを体験予約 WEB サイトにおいて掲載し、販売を開始
事業②	事業者間連携の強化 【観光会議、観光協会、ツーリズムとよた】	・体験+飲食や、場所+物販など、異なる事業者をパッケージ化した観光商品を開発し、販売
事業③	出展・インバウンド対応 【観光協会、ツーリズムとよた】	・観光関連展示会への出展、ラリージャパンを契機としたインバウンド対応力強化、外国人観光客向けツアーの誘致などの営業活動

(観光に関連する地域内での取組)

- ・下山地区を訪れた方に下山を知ってもらう看板を整備【下山地域をよくする会】
- ・三河湖の自然と生物を生かした交流事業の実施【三河湖の自然と環境を考える会】
- ・ラリージャパン三河湖 SS を地区内外に広報【三河湖 SS 広報部】

※各施策の取組事業は、【 】に記載する団体が主な担い手になって実施しますが、その他の団体やグループによる創意工夫あふれる取組も期待しています。

※住民のみなさんも、一人ひとりが下のような取組をしてみてください。

<一人ひとりの住民のみなさんの取組例>

- 親せきや友人が下山に来たら、下山の観光施設を案内します。
- 下山に来ている観光客に会ったら、やさしく案内したり、おもてなしをします。
など



9 産業 ～下山の産業をみんなで支えよう～

<現状と課題>

- ・商業、サービス業、建設業などは、定住人口の減少や他地区とのアクセス利便性の向上などにより競争が激化しています。特に、商業については、通信販売等の普及が地元での購買が減少しています。
- ・製造業も中小工場が立地していますが、製品の変化やサプライチェーンの変化により、需要の変化も激しくなっています。生活様式や価値観の変化により、必要とされる産業の種類の変化も大きくなっています。
- ・一方で、新たに立地するトヨタテクニカルセンター下山に関連する新たな仕事の創出や事業所の立地が期待されます。

<主な施策と取組>

施策 17 既存の産業の継承と新しい産業の創出

(めざす状態) これまで下山を支えてきた商工業・サービス業などが新しい時代にあった形で維持・継承されるとともに、新しい産業や事業所も創出され、産業全体が活性化しています。

(取組事業)

	事業名及び主な取組団体	事業概要
事業①	地区内の商工業者の支援 【下山商工会】	商工業に関する相談及び指導、研修会の開催、小規模企業支援
事業②	トヨタテクニカルセンター下山に関連する仕事の受注【各店舗】	下山弁当部会など継続的な地元事業者の活用を要請します。
事業③	トヨタテクニカルセンター下山に関連する企業誘致【下山支所など】	企業からの相談に備え、空き地・空き家情報を整理します。
事業④	特産品のPR及び特産品を活用した商品開発 【香恋の里】	お茶やしいたけなど地域の特産品を地区内外にPRするとともに、商品開発を行います。

※各施策の取組事業は、【 】に記載する団体が主な担い手になって実施しますが、その他の団体やグループによる創意工夫あふれる取組も期待しています。

※住民のみなさんも、一人ひとりが下のような取組をしてみてください。

<一人ひとりの住民のみなさんの取組例>

- 下山のお店や会社を知り、できるだけ買い物したり、サービスを利用する。
- 下山の特産品を外の人にも紹介する。 など



10 農地保全 ~美しい農村風景を守ろう~

<現状と課題>

- ・農地に関しては、耕地面積及び農業者がともに減少していることから、遊休農地、耕作放棄地が増加しています。
- ・農業従事者の高齢化が進み、後継者も不足することから、農業従事者のさらなる減少が懸念されます。
- ・また、農地を所有したり、保全したりする価値が見出せない状況にあり、下山における農地保全の意義を高めていく必要があります。

<主な施策と取組>

施策 18 農地の適正管理の推進

(めざす状態) 下山の主な農地は、下山全体での協働による営農により耕作が継続され、農のある美しい景観が形成されています。また、下山の農業の次世代の担い手も育ってきています。さらに、農業体験や特産品栽培など、農に関わる様々な取組も行われています。

(取組事業)

	事業名及び主な取組団体	事業概要
事業①	農作業受委託システムの普及 【下山地域営農協議会】	農作業受委託システムを地域の農業者等に周知し、活用を促進します。

(農地(山林)保全に関連して地域で行われている取組)

- ・里山の保全に関する事業の継続【しもやま里山協議会】
- ・田畑、山林、その他緑地の管理【しもやま緑地管理組合】
- ・安心安全なミネアサヒの栽培【香恋の田んぼ米の会】
- ・地区内で生産された野菜の共同出荷【しもやま高原野菜協議会】
- ・人と生き物が共生できる森づくり【香恋の森づくり推進協議会】
- ・薪炭文化の伝承による里山の再生【モリワカガエルの会】

※各施策の取組事業は、【 】に記載する団体が主な担い手になって実施しますが、その他の団体やグループによる創意工夫あふれる取組も期待しています。

※住民のみなさんも、一人ひとりが下のような取組をしてみてください。

<一人ひとりの住民のみなさんの取組例>

- 景観や防災などにおける農地の大切さを理解します。
- 下山で生産された農産物を購入して利用します。 など



11 基盤整備 ~暮らしを守る道路をつくろう~

<現状と課題>

- ・道路は、通勤・通学、買い物、通院などの日常生活や観光振興、定住促進において不可欠です。また、災害発生時のライフラインの確保としても重要です。
- ・国道 301 号の花山以西の区間については、トヨタテクニカルセンター下山の立地を機会に整備が進み、豊田市街地からの交通利便性は今後もさらに向上する見込みです。
- ・その他の主要道路や生活道路に関しても、地域が必要性を検討して県や市に要望することにより着実に整備が進んでいますが、整備が必要な区間は残されています。また、集落内の歩道整備なども必要となっています。

<主な施策と取組>

施策 19 道路整備

(めざす状態) 下山の中心部と集落間をつなぐ道路の整備により、利便性が向上するとともに、災害時の孤立防止に貢献しています。また、道路の充実が、宅地の創出などの定住促進にも貢献しています。

(取組事業)

	事業名及び主な取組団体	事業概要
事業①	交通量増加による影響調査・検討 【下山支所、愛知県】	交通量の調査結果を基に、対策を検討します。
事業②	要望路線の進捗管理と新たな路線計画の検討 【基盤整備部会、下山支所、愛知県】	要望路線の進捗状況を確認するとともに、新たな路線を要望します。
事業③	既存道路の舗装、修繕による路線の延命化【下山支所、愛知県】	既存の道路の状況を把握し、舗装・修繕を行います。
事業④	支障木の伐採 【地域会議、各自治区】	広域及び自治区をまたぐ支障木を中心に伐採を行います。

事業② 下山地区内での今後の道路整備の予定

【整備を予定している路線】 16路線（丸数字）

番号	路線名	事業箇所	事業内容	整備目標	工事進捗
①	県道坂上花沢線	花沢町	道路改良	長期（R3以降）	調査、測量中
②	主要地方道足助下山線	大沼町	道路改良	短期～長期（R6）	工事中
③	県道作手善夫大沼線	大沼町	道路改良	短期～中期（H30）	工事中
④	県道東大見岡崎線	大沼町	道路改良	中期～長期（R3以降）	未着手
⑤	市道下山二本松名牛東線	大沼町	道路改良	短期～中期（R2）	⑥完了後
⑥	市道下山越田和ドドメキ線	大沼町	道路改良	短期～中期（R2）	工事中
⑦	市道下山二本松名牛東線と市道下山越田和ドドメキ線を結ぶ道路	大沼町	道路新設	短期～中期（R2）	⑥⑤完了後整備効果を確認・検討
⑧	国道473号	和合町～ 神殿町	道路改良	短期～長期（R6）	工事中
⑨	県道東大見岡崎線	平瀬町	道路改良	中期～長期（R3以降）	未着手
⑩		栢立町	道路改良	中期～長期（R3以降）	未着手
⑪		東大林町	道路改良	中期～長期（R3以降）	未着手
⑫	県道作手菅沼平瀬線	宇連野町	道路改良	長期（R3以降）	一部用買済
⑬	市道下山田平沢大林線	田平沢町	道路改良	長期（R3以降）	R2～調査
⑭	市道下山下田上平線	黒坂町	道路改良	長期（R3以降）	調査、測量中
⑮	市道下山下平入り坂線	黒坂町	道路改良	中期まで（R2）	調査、測量中
⑯	市道下山黒坂和合線	黒坂町～ 和合町	舗装修繕	長期（R3以降）	一部完了

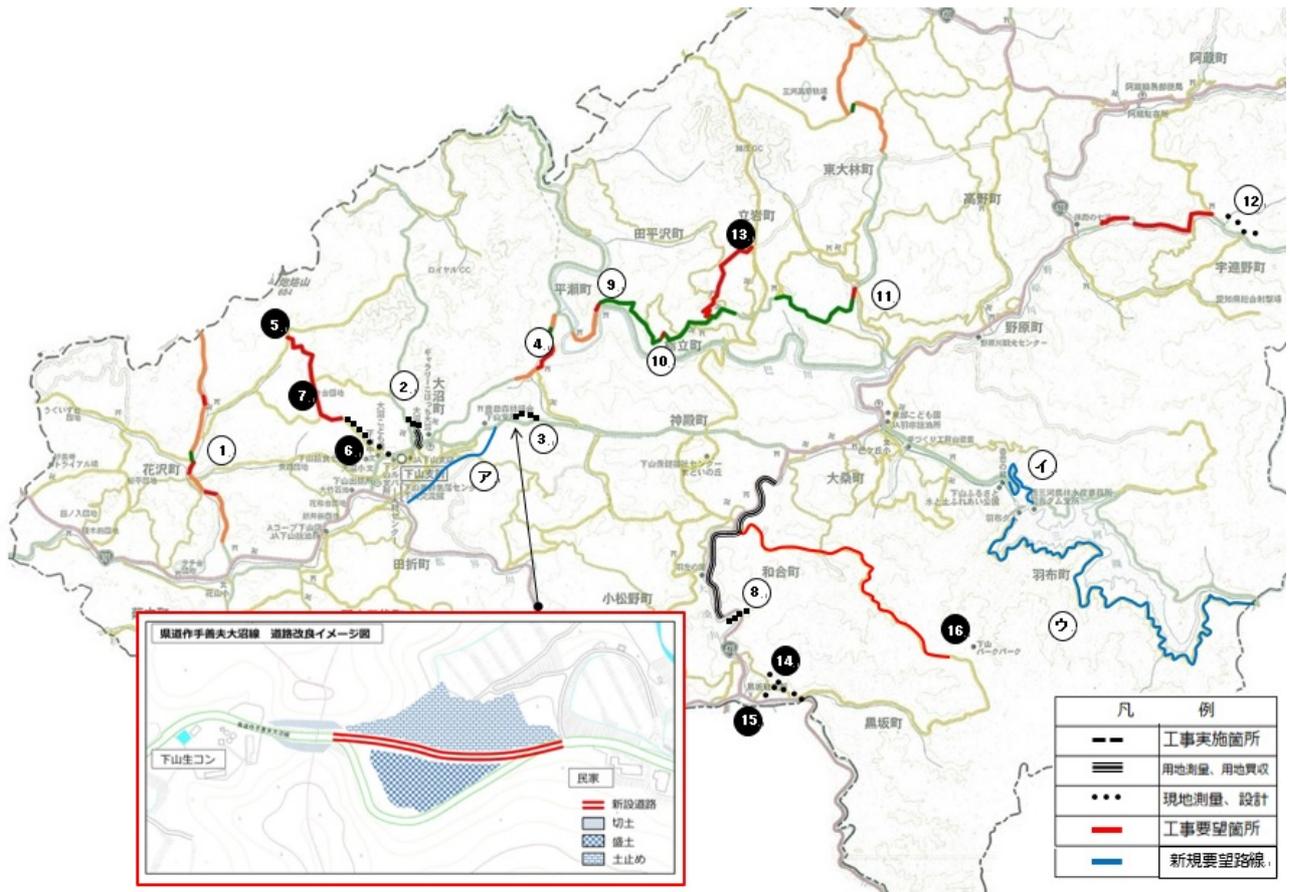
【番号】白丸は国県道、黒丸は市道です。

【整備目標】短期＝平成23年度から概ね5年間、中期＝短期から概ね5年間、長期＝中期以降

※あくまで目標年度であり、予算等を担保されたものではありません。

【新たに要望を検討している路線】 3路線（カナ文字）

番号	路線名	事業箇所	事業内容	整備目標	工事進捗
ア	県道作手善夫大沼線 大沼バイパス（仮）	大沼町	道路新設	－	－
イ	県道作手善夫大沼線	羽布町	道路改良	－	－
ウ	市道下山二夕瀬草木線	羽布町	舗装修繕	－	－



(基盤整備に関連する地域内での取組)

・わくわく事業を活用した支障木伐採【各地域団体】

※各施策の取組事業は、【 】に記載する団体が主な担い手になって実施しますが、その他の団体やグループによる創意工夫あふれる取組も期待しています。

※住民のみなさんも、一人ひとりが下のような取組をしてみてください。

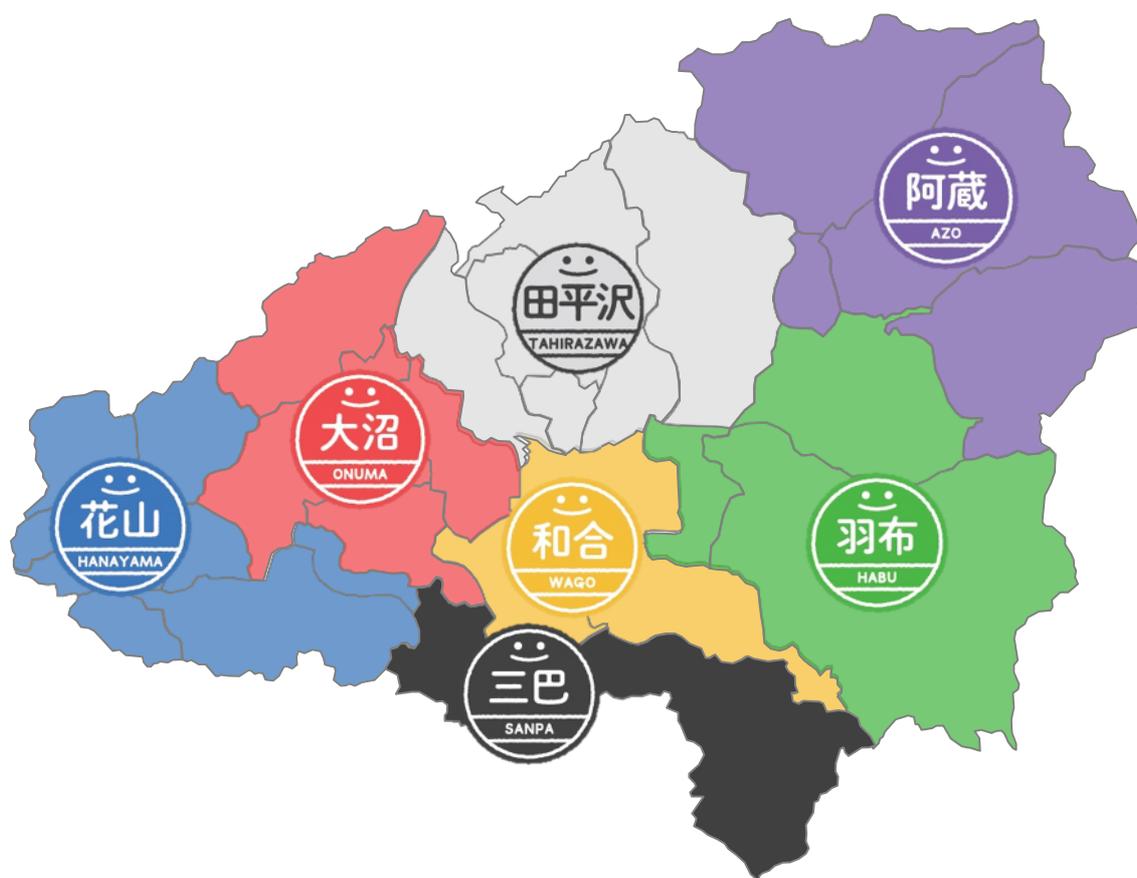
〈一人ひとりの住民のみなさんの取組例〉

- 道路を大切に使い、道路の修繕・補修などに協力します。
- 地域の活動として沿道の草刈りや支障木伐採に協力します。 など

自治区プラン

下山地区内には、阿蔵、大沼、三巴、田平沢、花山、羽布、和合の7つの自治区がありますが、自治区ごとの状況は大きく異なっており、抱えている課題も様々です。

そこで、課題の解決のために今後5年間に実施していく内容を、自治区ごとに住民や地域の活動団体が主体となって、「自治区プラン」として、とりまとめました。





阿蔵 自治区プラン

【対象のエリア】阿蔵町、宇連野町、高野町、梨野町

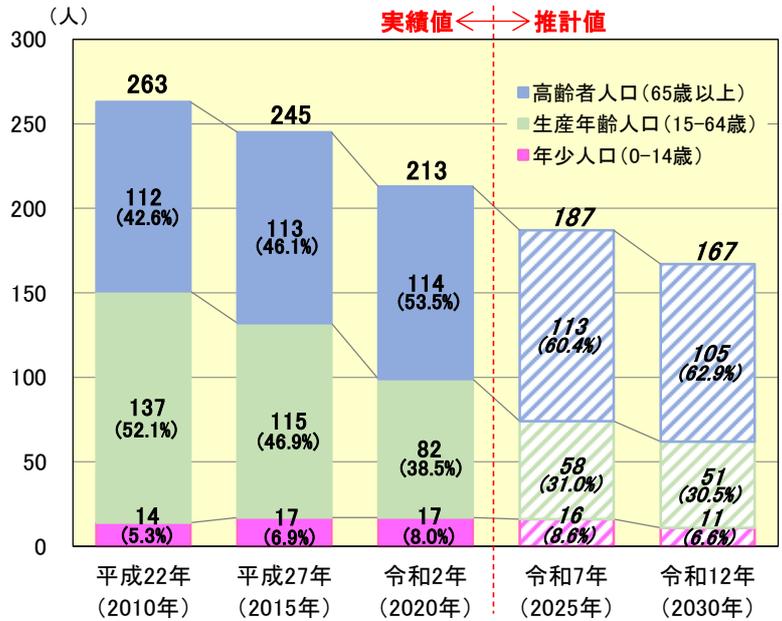
1. 阿蔵自治区の現状

＜人口の減少、特に子どもや若い人の減少＞

- 令和2年の人口は213人であり、この10年間で50人減少しています。65歳以上の高齢者人口はほぼ横ばい、14歳以下の年少人口は少し減っていますが、15歳から64歳の生産年齢人口は大きく減少しています。
- この傾向が今後も続くと、令和12年の人口は167人とさらに減少し、特に生産年齢人口がさらに半数程度に減少、高齢化率は62.9%になると予想されます。

＜人口減少と高齢化が地域に及ぼす影響＞

- 住民の減少と高齢化に伴い、自治区や組の運営などの担い手不足、農地の荒廃、空き家の増加、移動の不便さや買い物の困難さなどが心配されています。
- 子どもの人数が少なく、子どもを見守る人や場所も少なくなることが懸念されます。



年齢別人口のこれまでの推移と今後の推計
 ※各年10月1日 年齢は学齢
 (実績値は住民基本台帳、推計値は豊田市下山支所の推計)

2. 阿蔵自治区の10年後の将来像

- ▼組の合併やお役の見直しを行いながら、**地域の活動が適正な規模で実施**されています。
- ▼様々な活動グループや「**かえで**」の運営も続いており、**住民同士のつながり**が続いています。
- ▼念仏踊りなどの**地域の文化が次世代に引き継がれて継続**されています。
- ▼**空き地や遊休農地、空き家**は住民の協力により活用され、**新しい住民に提供**されています。
- ▼**農地や山林**は、**住民同士**が協力したり、**地区外の人や企業に協力**してもらったりするなどにより守っています。
- ▼阿蔵での**地区の情報**が取りまとめられ、阿蔵への転入者や転入を希望している人に**情報が提供できる**状態になっています。

3. 阿蔵自治区の5年間の取組

取組 1 4つの組を合併する（阿蔵・宇連野・高野・梨野を1つの組にする）

阿蔵自治区では、各組ともに人口減少・高齢化が激しく、組の役員の担い手が少なくなっているため、組の運営が既に難しくなっています。このため、将来的に4つの組を合併し、阿蔵自治区を1つの組として運営していきます。なお、組の合併にあわせて、役員、神社や祭礼、共有財産の今後のあり方についても検討し、次の世代に引き継いでいきます。

また、長期的には、他の自治区との合併や連携についても検討していきます。

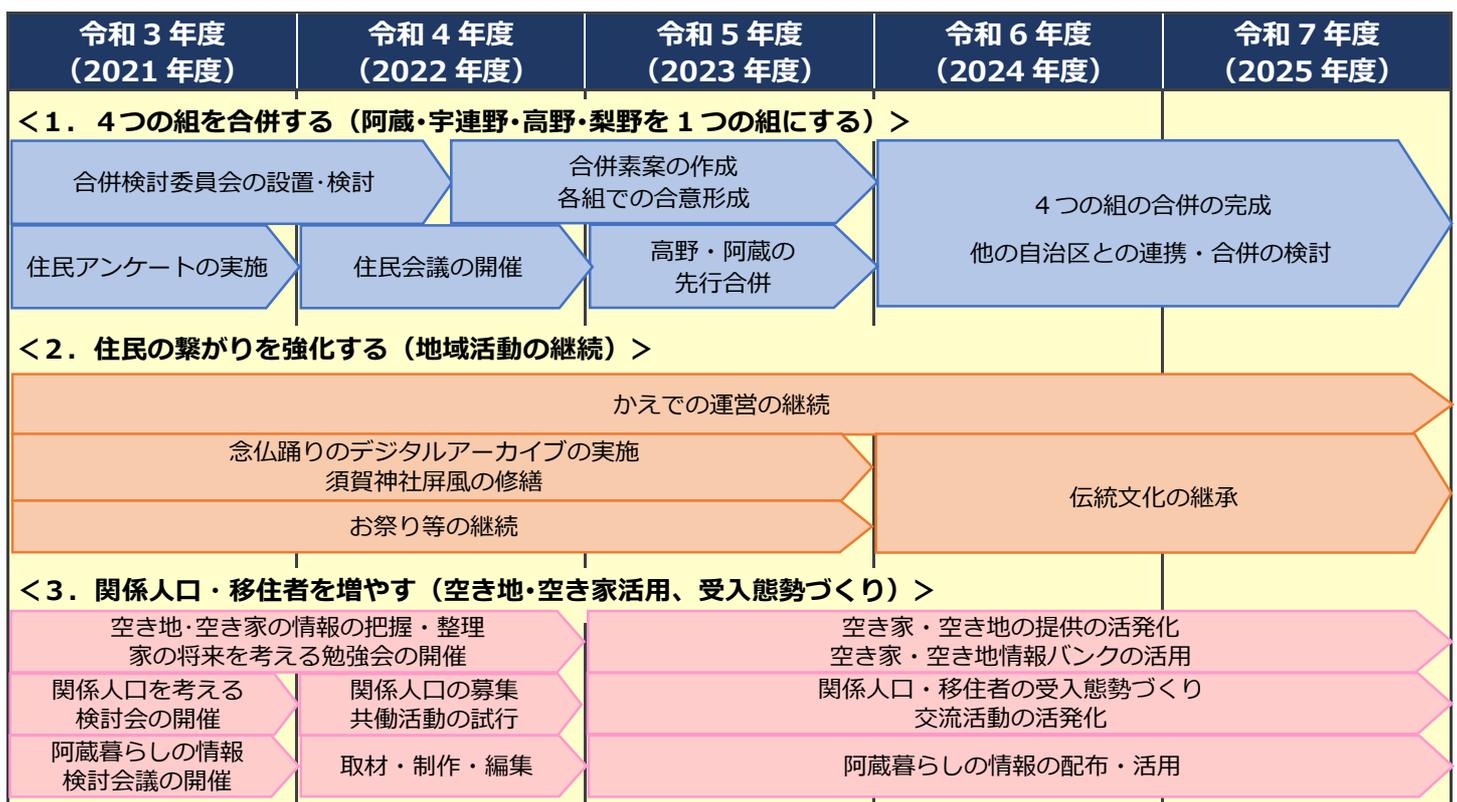
取組 2 住民の繋がりを強化する（地域活動の継続）

阿蔵自治区では、地域の活動を通じた住民同士の繋がりができています。人口が減少するなかでも、産直のかえでや念仏踊り、三番叟など、現在行われている地域活動を継続します。こうした活動を通じて、大人から子どもまで幅広い年代が接することにより、地域への愛着を高めて、より強い住民の繋がりを作ります。

取組 3 関係人口・移住者を増やす（空き地・空き家活用、受入態勢づくり）

阿蔵自治区を持続させていくためには、子どもが住み続けたりUターンで戻って来たりするだけでなく、新しい住民を受入れていくことが必要です。このためには空き家・空き地を活用・提供することから、空き家を把握したり、各家で将来の土地や住宅について考えたりしていきます。

あわせて、阿蔵の暮らしについての情報が提供できる状態になっており、移住者や関係人口を地域で受け入れるための体制づくりを行います。





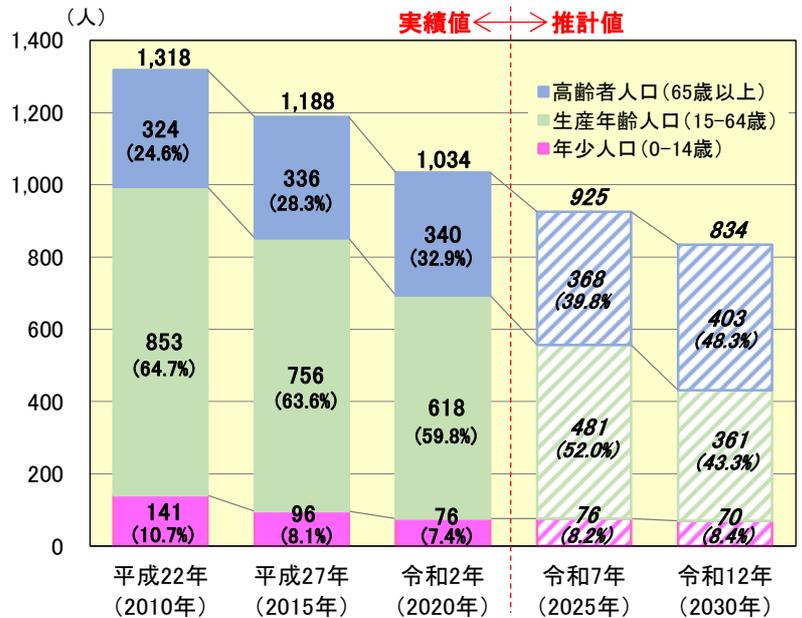
1. 大沼自治区の現状

<人口の減少、特に子どもや若い人の減少>

- 令和2年の人口は1,034人であり、この10年間で284人減少しています。14歳以下の年少人口、15歳から64歳の生産年齢人口は大きく減少し、65歳以上の高齢者人口は増加しています。
- この傾向が今後も続くと、令和12年の人口は834人とさらに減少し、年少人口、生産年齢人口の減少、高齢者人口の増加は進み、高齢化率は48.3%になると予想されます。

<人口減少が地域に及ぼす影響>

- 子どもの減少により、大沼小学校では一部の学年で複式学級になっています。また、高齢化に伴い、地域の運営・行事などの担い手の減少、ひとり暮らし高齢者や介護世帯の増加、空き家・空き地の増加などが懸念されます。
- 住民アンケートでは、獣害、高齢者の暮らし、子どもの減少などが心配ごととして多くあげられています。



年齢別人口のこれまでの推移と今後の推計
 ※各年10月1日 年齢は学齢
 (実績値は住民基本台帳、推計値は豊田市下山支所の推計)

2. 大沼自治区の10年後の将来像

- ▼空き家や空き地、農地などが適切に管理され、美しく整備された景観が広がっています。
- ▼多くの空き家や新たな宅地が定住のために提供され、地域のコーディネートのもと、下山出身者が、いつまでも暮らし続けたり、地区外からも多く転入したりして、地域に溶け込んで暮らしています。
- ▼高齢者が地域の一員としての役割を果たし、多くの人とコミュニケーションをとることができる環境の中で安心して生き生きと暮らしています。
- ▼子どもや子育て世帯が自らまちづくりに参画し、地域の一員として生活したり、地域住民と交流したりすることで、地域の子どもの成長していくことのできる自治区となっています。
- ▼誇れる大沼の歴史や文化、伝統を継承するため、伝統芸能を子どもに伝えるとともに、史跡や美しい景観などが整備され、多くの人を訪れることで、区民の誰もが「WE LOVE 大沼」の気持ちを育んでいます。
- ▼子どもたちに胸を張ってつなぐことのできる大沼づくりを推進するため、定期的なまちづくりについて検討する場を開催し、未来の大沼について考える機会を持っています。
- ▼自治区外に転出した人たちも、いつまでも大沼が大好きで、機会のあるごとに大沼との関わりを持ち続けています。

3. 大沼自治区の5年間の取組

取組 1

各家の住宅等の未来を考えるとともに、定住人口の確保を推進する
 ~地域の環境（空き地・空き家・農地）の適切な管理と地域の維持・活性化のために~

空き家や空き地を放置されると地域環境に悪い影響を及ぼすとともに、所有者にも心配事や負担となります。空き家や空き地の活用は、問題を解決する一つの方法と考えます。また、活用は、大沼の定住人口の確保にもつながります。活用には、各家の将来について家族みんなで話し合い、5年、10年後を考えた準備をしていくことが大切になります。自治区として、各組や集落の実情に合わせ、住民が安心して暮らせて且つ活気のある地域となることを目標に取組を行っていきます。

取組 2

高齢者が地域の一員として、生き生きと暮らし続けられる地域づくり
 ~高齢になっても安心して暮らし続けられるために~

高齢者人口の増加が見込まれる中、高齢者が暮らしやすい地域づくりが急務となっています。自治区として、高齢者の見守りや声掛けを地域ぐるみで行うとともに、地域の一員としての役割を提供したり、インターネットを活用するなどつながりを創出したりして、高齢者の暮らしの充実を図ります。

取組 3

子どもや子育て世帯が地域の一員と感ずることのできる地域づくり
 ~若い世代の定住性を高め、子どもの元気な声が聞こえる大沼をめざして~

持続可能な地域にするためには、子どもや子育て世帯が増えることが重要です。そのため、子育て世帯の思いをまちづくりに反映できる仕組みをつくるとともに、地域と子ども、子育て世帯がつながることのできる機会を創出します。また、地域学校共同本部等との連携を深め、子育て環境の充実を図ります。

取組 4

誇れる大沼の歴史、文化、スポーツ等や美しい景観を次世代に継承する
 ~「WE LOVE 大沼」の深化、継承をめざして~

地域への愛着を深め、暮らすことに誇りを持てる大沼とするため、先人の培ってきた歴史や文化、伝統を継承するための取組を進めるとともに、美しい景観を継承するため、環境整備や植栽の充実を図ります。また、自治区外の方へのおもてなし環境を整備し、区民が大沼の良さを再確認できる機会をつくりま

取組 5

持続可能で未来につなぐ大沼まちづくりの推進
 ~現在、そして未来の地域課題解決をめざして~

子どもたちに胸を張ってつなぐことのできる大沼づくりを推進するため、大沼まちづくり部会を定期的で開催し、地域課題の洗い出しや解決に取り組みます。また、関係団体等との調整を図りながら未来の大沼のまちづくりに向けた事業計画の立案や推進を図ります。

令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
< 1. 各家の住宅等の未来を考えるとともに、定住人口の確保を推進する >				
① 空き家、空き地調査、空き家予想マップの作成 ② 「大沼住民の生活・暮らしのルール」の作成 ③ 空き家、財産管理、資産活用に関する勉強会の実施、相談窓口の紹介 ④ 移住者、地区外の人達との交流会、意見交換会の実施				
< 2. 高齢者が地域の一員として、生き生きと暮らし続けられる地域づくり >				
① インターネットを使った交流 ② 高齢者の共通趣味グループづくり、集まれる場所づくり ③ 認知症サポーター養成				
< 3. 子どもや子育て世帯が地域の一員と感ずることのできる地域づくり >				
① 子育て世代の保護者の思いや願いを地域につなげる仕組みづくり ② 「思いや願いを聞く会」から「話しやすい会」への展開 ③ 安心・安全につながる見守り活動の地域全体への呼びかけ				
< 4. 誇れる大沼の歴史、文化、スポーツ等や美しい景観を次世代に継承する >				
① 史跡を利用した小規模な公園化整備 ② 子どもから高齢者までが一日中楽しめるイベントの開催 ③ 道路周囲の環境美化 ④ 中心地のシンボリックな景観整備				



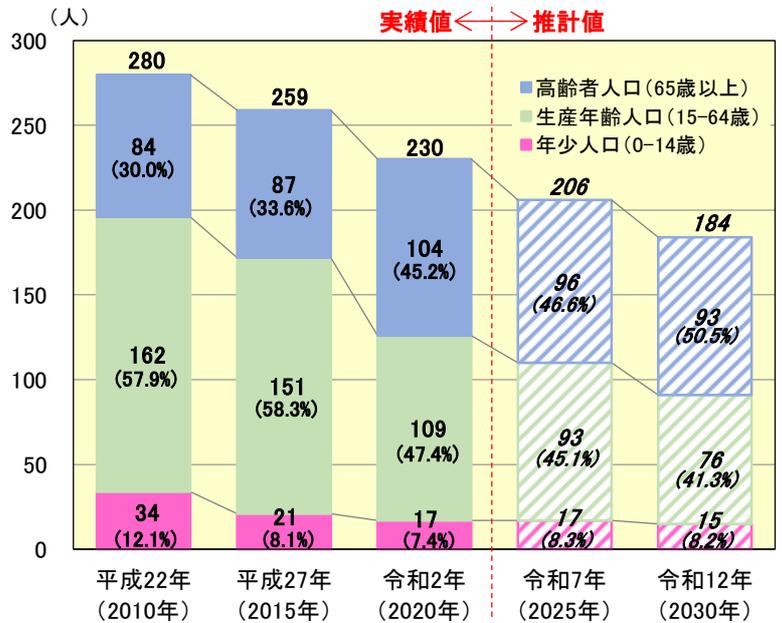
1. 三巴自治区の現状

<子どもや若い人の減少、高齢化率の増加>

- 令和2年の人口は230人であり、この10年間で50人減少しています。14歳以下の年少人口、15歳から64歳の生産年齢人口が減少し、65歳以上の高齢者人口が増加しています。
- この傾向が今後も続くと、令和12年の人口は184人となり、年少人口、生産年齢人口の減少は続き、高齢化率は50.5%になると予想されます。

<高齢化が地域に及ぼす影響>

- 住民の減少と高齢化に伴い、地域の運営や行事などの担い手が少なくなっています。外からも多くの人を訪れていた三巴の朝市も、現在では、廃止されています。
- 若い世代の移住世帯も地域に溶け込みながら暮らしていますが、子育てや子どもの通学などにおいて不便を感じてきている人もいます。



年齢別人口のこれまでの推移と今後の推計
 ※各年10月1日 年齢は学齢
 (実績値は住民基本台帳、推計値は豊田市下山支所の推計)

2. 三巴自治区の10年後の将来像

- ▼ 地区外に転出した人達とも、良好な関係が築かれており、関係人口が維持されています。
- ▼ 空き家や空き地は増えていますが、放置されることなく、移住者用の住宅などとして活用されています。
- ▼ 隣近所のあいさつや会話が日常的に行われ、支え合いや見守りなど 暮らしの安心が感じられています。
- ▼ 若者の定着や移住が進み、子育て世帯にとって住みやすい地域になっています。
- ▼ 外の人のもも借りながら 農地や山林が守られており、農業や林業の 担い手となる人も出てきています。
- ▼ 郡界川沿いの河津桜を育む活動が多くの人の参加により行われており、春には花見に訪れる人が増えています。
- ▼ ホテルが生息しやすい環境づくりが続けられおり、初夏にはホテルが飛び交う風景が見られています。
- ▼ 自治区や組の運営・行事は、少しずつ形を変えながら、次の世代に引き継がれています。
- ▼ 巴太鼓などの伝統芸能やお祭りなどの行事が守り続けられており、子どもや高齢者、地区外に転出した者にとっても 「三巴の誇り」となっています。

3. 三巴自治区の5年間の取組

取組1 定住・移住を促進して人口の維持を目指そう

定住者と地区外に転出した者の交流の機会を確保し、Uターン者の増加や関係人口の維持のために花見・夏祭りなど交流事業を継続して実施します。また、移住者を増やすための空き家・空き地の発掘を継続的に実施します。

取組2 子育て世代の母親・女性同士の交流の場をつくろう

転入者や嫁いできた方など、地域との交流の機会が少なく、地域に溶け込むことや情報を得ることが困難になっています。地域の行事や今ある仕組みを活用しながら交流の場を作ります。

取組3 農地や山林を継続的に維持管理しよう

地区内には多くの農地や山林があります。健康づくりのためにも農業・林業を継続的に実施します。特に農地に関しては、イノシシ、シカ、サルなどの獣害対策を重点的に取り組みます。

取組4 自然の良さを守り、育てよう

自然環境の良さを守るため、引き続き草刈りや環境整備を継続します。また、郡界川沿いに植栽された河津桜を手入れし、さらにホタルやササユリなどを増やす環境づくりを進めます。

取組5 地域活動の維持や発展に取り組もう

お祭りや巴太鼓などの伝統行事や農林業や地元料理などの地域の知恵を大切に、地区外の方の助力を受けながら、後世に受け継ぐように保存活動を行います。

令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
<1. 定住・移住を推進して人口の維持を目指そう>				
花見や夏祭りなど交流事業の継続				
空き家・空き地の発掘				
<2. 子育て世代の母親・女性同士の交流の場をつくろう>				
サロン状況確認	サロンの周知			
地域の祭礼の機会を活用した交流の実施				
<3. 農地や山林を継続的に維持管理しよう>				
メッシュ・電気柵の設置の推進				
ワナ資格取得の推進・オリの設置				
<4. 自然の良さを守り育てよう>				
河津桜の手入れの継続 草刈(年2回)、剪定(3年おき)、支障木確認(隔年)				
ホタルの視察	現状調査	カワニナ育成	ホタル育成	ホタルの保護
<5. 地域活動の維持や発展に取り組もう>				
活動の見直し	廃止、継続、新規の振り分け			
お祭り(巴太鼓も含む)など伝統文化の継承				



田平沢 自治区プラン

【対象のエリア】立岩町、田平沢町、
栃立町、東大林町、平瀬町

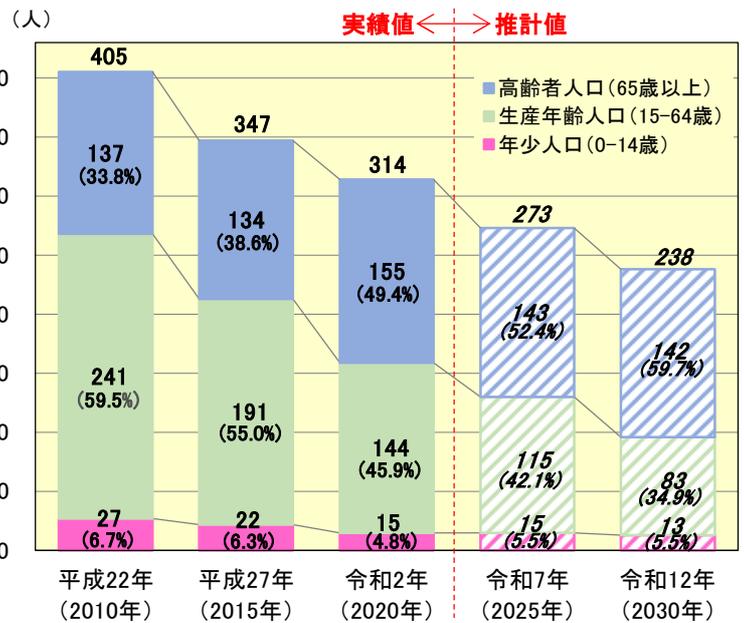
1. 田平沢自治区の現状

<人口の減少、特に若者世代の減少>

- 令和2年の人口は314人であり、この10年間で91人減少しています。14歳以下の年少人口、15歳から64歳の生産年齢人口は大きく減少し、65歳以上の高齢者人口は増加しています。
- この傾向が今後が続くと、令和12年の人口は238人とさらに減少し、年少人口、生産年齢人口の減少は進み、高齢化率は59.7%になると予想されます。

<人口減少、高齢化が地域に及ぼす影響>

- 田平沢自治区は東西に長く広がり、集落が点在していることから、自治区民相互の交流が気軽にでき難い環境にあります。このような地域性もあり、住民の減少と高齢化と共に、次の世代の担い手不足も重なり、地域の運営や行事などに支障が生じる恐れがあります。また、今後のひとり暮らし高齢者の増加、介護世帯の増加などが懸念されます。



年齢別人口のこれまでの推移と今後の推計
 ※各年10月1日 年齢は学齢
 (実績値は住民基本台帳、推計値は豊田市下山支所の推計)

2. 田平沢自治区の10年後の将来像

- ▼ひとり暮らしの世帯は増えていますが、**気軽に集まれる場所**があり、孤独になる人はいません。
- ▼自治区内では、**誰もが楽しめるイベント**が定期的に行われ、みんなが生き生きと活動しています。
- ▼進学・就職・結婚などで外に出ていった人も、盆の帰省時には地域みんなで集まり、**地域とのつながりが維持**されています。
- ▼地域の環境整備を通して、田平沢自治区の景観を美しく保ち、訪れる人にも田平沢の豊かな自然と**美しい景観**でもてなします。
- ▼地域の若い世代の**自治区活動への参加**がされており、自立した自治区運営が継続されています。
- ▼自治区や組の運営、行事やお祭りは、少しずつ形を変えながら、**次の世代に引き継がれ、存続**しています。

3. 田平沢自治区の5年間の取組

取組1 住民同士のつながりづくり

地域の人が気軽に集まっておしゃべりをする機会が少なくなり、近所同士の繋がりが希薄になっています。そのため、自治区内で自主活動グループを立ち上げ、いつでも集まれる場を作るとともに、自治区内での活動を活発にし、住民同士の交流を深めます。

取組2 田平沢転出者との関係づくり

自治区が開催するイベントには、転出した子どもや孫が多く参加し、地域に定期的に戻ってきてくれます。今後もこの繋がりを維持する取組を定期的に行います。このように転出してでも地区外から地域活動に参加し、田平沢を支えてくれる人を増やしていきます。

取組3 地域活動による景観維持

高齢化により、田畑を管理することが困難になり耕作放棄地や空き家が増えることが懸念されます。住民一人ひとりが財産管理に対する意識を高め、将来的に荒地や空き家になることを未然に防ぎます。また、もみじ街道や巴川沿いの環境整備を住民同士で協力して継続的に行うことで、地区外から来訪される方も魅了する田平沢にしていきます。

取組4 自治区運営を次世代に引き継ぐためのあり方検討

自治区や組、行事や祭りの担い手の高齢化が進んでいます。人口減少の他、若手の自治区活動参加が少ないことで、担い手がいなくなることが懸念されます。自治区行事や祭りを次世代へ継承していくためにも、今後の自治区運営のあり方について検討していきます。

令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
<1. 住民同士のつながりづくり>				
	「笑母会」を続ける、活動を伝える、参加者を増やす		「笑母会」と「おっさんずクラブ」が一緒にやる活動をやってみる	
	「おっさんずクラブ」を結成して、活動を始める、続ける		子どもや若い世代も参加できることを考える	
<2. 田平沢転出者との関係づくり>				
	夏まつり実行委員会により企画検討する お試しの小さな企画でやってみる お試しの結果を企画に反映させる	田平沢とつながる人に広く呼び掛けて、おまつりを開催する (大きなイベントにするより、続けることを大切にする)		
		田平沢小学校閉校20周年記念イベントの開催を検討する		
<3. 地域活動による景観維持>				
	主要道路沿いの定期的な景観整備、空き家・空き地の調査協力、自治区で協力した田んぼの維持管理による景観維持			
<4. 自治区や行事・祭りを次世代に引き継ぐためのあり方検討>				
現在の行事・お役などの見直し検討 必要性や課題を再確認する		自治区・組の在り方 についてのアンケート調査・分析	現在の自治区プランを進捗管理する 次の自治区プランを考える	
自治区まちづくり部会を 立ち上げる			アンケート結果に基づいた運営のための準備	



花山 自治区プラン

【対象のエリア】 蕪木町、下山田代町、田折町、花沢町

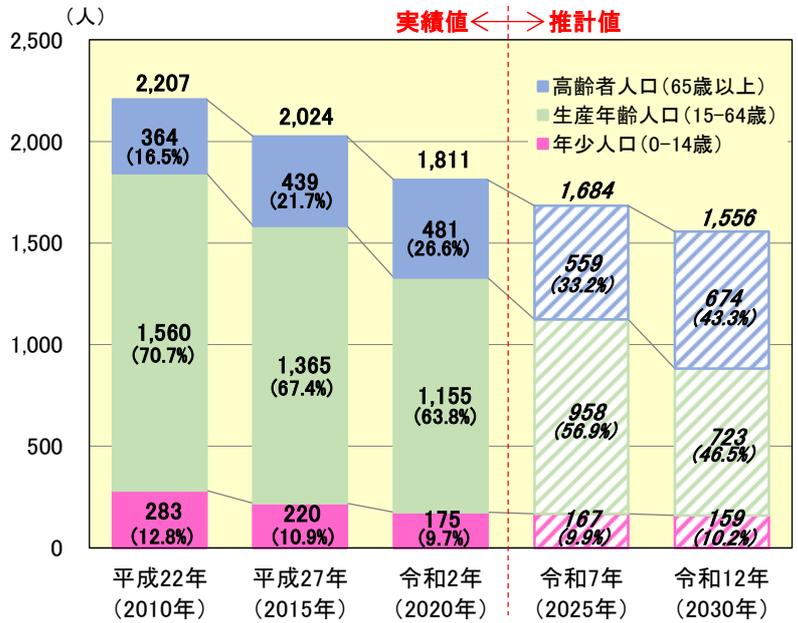
1. 花山自治区の現状

<人口の減少、高齢化の進行>

- 令和2年の人口は1,811人であり、この10年間で396人減少しています。14歳以下の年少人口、15歳から64歳の生産年齢人口は大きく減少し、65歳以上の高齢者人口は増加しています。
- この傾向が今後も続くと、令和12年の人口は1,556人とさらに減少し、年少人口、生産年齢人口の減少、高齢者人口の増加は進み、高齢化率は43.3%になると予想されます。

<人口減少の影響と住民の心配ごと>

- 住民の減少、特に子ども・子育て世代の減少により、花山小学校の児童が減少しています。
- 地域への愛着は感じているものの、自治区活動への関心が薄く参加率が低迷しています。
- 令和元年8月の住民アンケート調査では、子どもの遊び場、買い物の不便などが挙げられています。
- テストコースの本格稼働により、交通量の増加に伴う交通事故、交通渋滞の増加が心配されています。

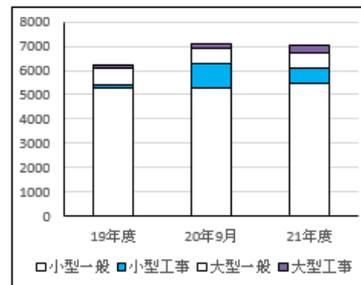


年齢別人口のこれまでの推移と今後の推計

※各年10月1日 年齢は学齢

(実績値は住民基本台帳、推計値は豊田市下山支所の推計)

国道301沿い(花沢町)の工事車両の台数予測(日当り往復台数)



- ・小型車(作業員通勤)は減少の見込み。
- ・大型車(ダンプ等)は若干増加の見込み。
- ・2023年12月頃まで大型車:200台/日(往復計)程度の見込み

2. 花山自治区の10年後の将来像

- ▼ 移住者の受け入れが盛んになっており、地域ぐるみで空き家や遊休地活用の意識が高まっています。
- ▼ 子どもやお年寄りが、安心感をもって暮らしやすい地域となっています。
- ▼ 自治区活動の意識が向上し、防災訓練などの自治区行事に積極的に参加する人が増えています。
- ▼ 周辺地域や地区内事業所との情報交換の場が設けられ、良好な関係が築けています。
また、テストコース本格稼働による交通渋滞緩和などへの対策を協力して行っています。
- ▼ 周辺地域や事業所・従業員との交流やイベントが行われ、新しい賑わいもできています。
そうした取組をきっかけにして、花山への転入者が増え、若い人や子どもも増えています。

3. 花山自治区の5年間の取組

取組1 地域をあげた移住者の受け入れ態勢と受皿づくり

人口減少が進む中、今後の自治区活動を維持するためにも、移住者を受け入れ、地域活動の担い手につながる取組が急務となっています。そのため、移住者を地域の一員として受け入れる土壌と、受皿となる空き家の発掘を進める必要があります。また、移住後の生活サポート体制を整えるなど、地域をあげて移住者を受け入れる態勢と受皿づくりに取り組んでいきます。

取組2 子どもやお年寄りが集える場所づくり

自宅以外で子どもが遊ぶ場所、高齢者が過ごす場所が求められているため、自治区内にある集いの場の掘り起こしと周知を行います。また、地区内の子どもと高齢者を集めた三世代交流イベントを実施し、集いの場を創出します。さらに、自治区活動の拠点となる区民会館（仮称）建設に向けての検討を行います。

取組3 区民が自治区活動に参画したくなる地域づくり

暮らしやすい地域づくりを推進するためには、区民が自治区活動を理解し、活動へ参画しながら自治区を盛り上げていくことが重要です。そのため、自治区活動の啓発と区民の意見を伝えやすい場を提供するとともに、自治区活動をサポートする仕組みや区民による主体的な活動意識を育てる仕組みを創出します。また、自治区備品の貸出が見える化し、区民の地域活動支援や非常時の共助体制を整えます。

取組4 周辺地域、地区内事業所との関係づくり

自治区の更なる発展のためにも、周辺地域や地区内事業所との関係性を密にすることが求められています。このため、相互の情報交換の場や、共同作業による景観整備などを通じて互いに信頼関係を築き、安全で活気あるまちづくりを進めていきます。

令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
<1. 地域をあげた移住者の受け入れ態勢と受皿づくり>				
受入勉強会の検討及び開催 / 空き家発掘及び啓発活動				
移住後の生活サポート支援の検討及び実施				
<2. 子どもやお年寄りが集える場所づくり>				
集いの場の洗出し・検討	集いの場の周知 活用方法周知	新たな集いの場や区民会館の検討		
イベント部会設置 イベント内容検討	三世代交流イベント			
<3. 区民が自治区活動に参画したくなる地域づくり>				
区民意見の目安箱準備	目安箱運用 / 花山版わくわく事業運用			
花山版わくわく事業準備	区民集いの場準備	区民集いの場実施		
備品貸出制度及び 非常時の共助体制準備	備品貸出啓発及び非常時の共助体制運用			
	ちょこっとパートナー募集			
<4. 周辺地域、地区内事業所との関係づくり>				
事業所との関係構築 顔合わせ・意見交換 アンケート等	交通インフラ整備、充実 / 獣害、草刈等協働実施など			
	社会学習支援の充実、交流の場創出			



羽布 自治区プラン

【対象のエリア】大桑町、野原町、羽布町

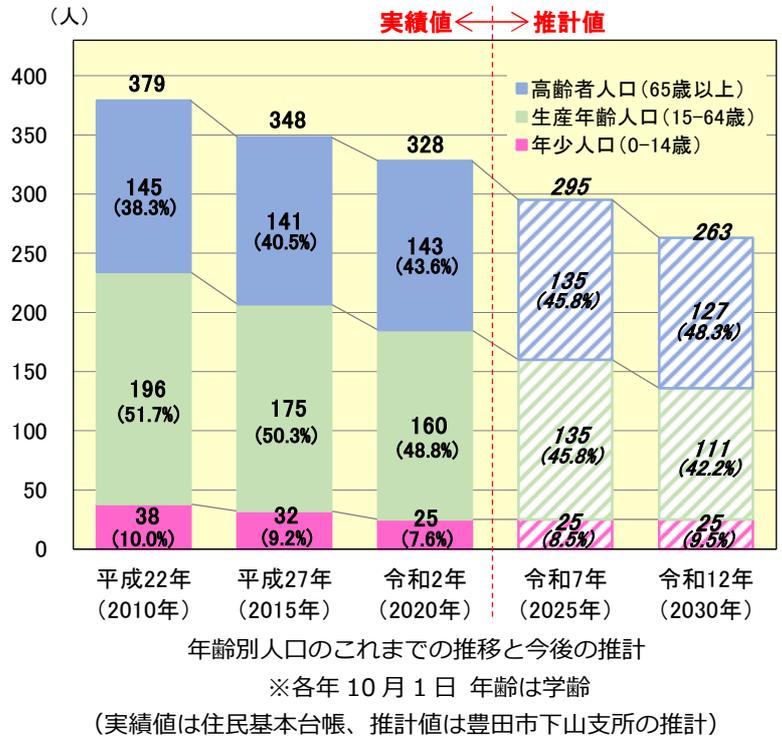
1. 羽布自治区の現状

＜人口の減少、特に若者世代の減少＞

- 令和 2 年の人口は 328 人であり、この 10 年間で 51 人減少しています。特に、15 歳から 64 歳の生産年齢人口は大きく減少しています。
- この傾向が今後も続くと、令和 12 年の人口は 263 人に減少し、生産年齢人口の減少はさらに続き、高齢化率は 48.3%になると予想されます。

＜人口減少・若者の減少が地域に及ぼす影響＞

- 住民減少、特に若者世代の減少に伴い、地域の運営や行事などの次の世代の担い手が少なくなるとともに、農地や山林の管理も困難になっています。また、今後のひとり暮らし高齢者の増加、自動車を運転できない人の移動手段の確保、空き家の増加などが心配されています。



2. 羽布自治区の 10 年後の将来像

- ▼高齢者は増えていますが、ご近所同士の世代を超えた交流や助け合いが盛んです。
- ▼高齢者も含めて、みんながパソコンやスマートフォンを使えるようになり、暮らしが楽しくなっています。
- ▼地域の防災施設が充実し、災害に備えた住民の意識も高まっています。
- ▼住宅や農地の将来を地域全体で考えるようになり、空き家や遊休農地が様々な方法で活用されています。
- ▼子どもや子育て世帯にとって、暮らしやすい地域になっています。
- ▼古くからの住民、移住者、その他の羽布と関わりのある人も含めて、みんなで親睦を深めたり交流する機会が生まれており、羽布の関係人口は増えています。
- ▼景観の整備などにより三河湖の魅力が高まり観光客も増え、住民と観光客がふれあう機会もできています。
- ▼地域の仕事などを見直していくことにより、若い世代の担い手が増え、祭りや行事は存続・継承されています。外に住む人も地域の仕事や行事の運営などに協力してもらっています。

3. 羽布自治区の5年間の取組

取組1 定住・移住の促進（空き家活用、移住者受入の仕組みづくり）

地域が守りたい景観や祭り（伝統）の継承など、皆が楽しく安心して暮らせる地域づくりを目指して、空き家の活用や移住者の受入体制を整えます。各家庭で住宅の将来を考える仕組み、空き家を活用しやすくする仕組みをつくとともに、移住者が地域に溶け込みやすくするための取組を行います。

取組2 住民同士の支え合い体制整備

地域住民が安心して暮らし続けられるように、災害時などにおいても住民相互の助け合いがスムーズにできるような体制を整えます。地域の高齢者世帯や一人暮らし世帯に対して無理なく見守りを行うような活動や互いに助け合いを行うような活動を進める仕組みづくりを行います。

取組3 農山村の魅力や景観の維持・向上

生活環境の維持（住みよい環境）や地域の活性化のために、農地・山林や道路・水路を地域共有の財産として地域で草刈や清掃等を行い、共同で管理するなど、地域の景観を維持・管理する取組を行います。

また、観光資源を有効活用するとともに、地域の観光事業者と連携を強化しながら、地域で実施可能な事業（WRCや鯉のぼりの掲揚など）を検討し、実施していきます。

取組4 自治区運営の維持・改善（次世代に引き継ぐためのお役や行事の再編）

このまま高齢化が進み、若者は減少すると、お役を担える人が固定化し、地域の活動が維持できなくなることが懸念されます。今後もお役や地域行事を次世代に引き継ぐために、現状把握を進めるとともに、実施方法の見直しや自治区の運営体制の在り方を検討します。

令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
<1. 定住・移住の促進（空き家活用、移住者受入の仕組みづくり）>				
住民アンケートの実施	住民向け説明会・勉強会の実施・羽布自治区「暮らしの作法」の作成			
	空き家の発掘			
<2. 住民同士の支え合い体制整備>				
	組単位での見守り活動・住民の困りごとを住民で解決			
	災害時の連絡体制を確立			
<3. 農山村の魅力・景観の維持・向上>				
	道水路等（共用部）の維持管理			
	地域資源（農地、山林、観光施設等）活用型法人の設立・運営			
<4. 自治区運営の維持・改善（次世代に引き継ぐためのお役や行事の再編）>				
各自治会の現状把握	役員構成のあり方検討・組統合に向けた施策			
	各組行事継続と新規事業の掘り起こし			



和合 自治区プラン

【対象のエリア】 神殿町、小松野町、和合町

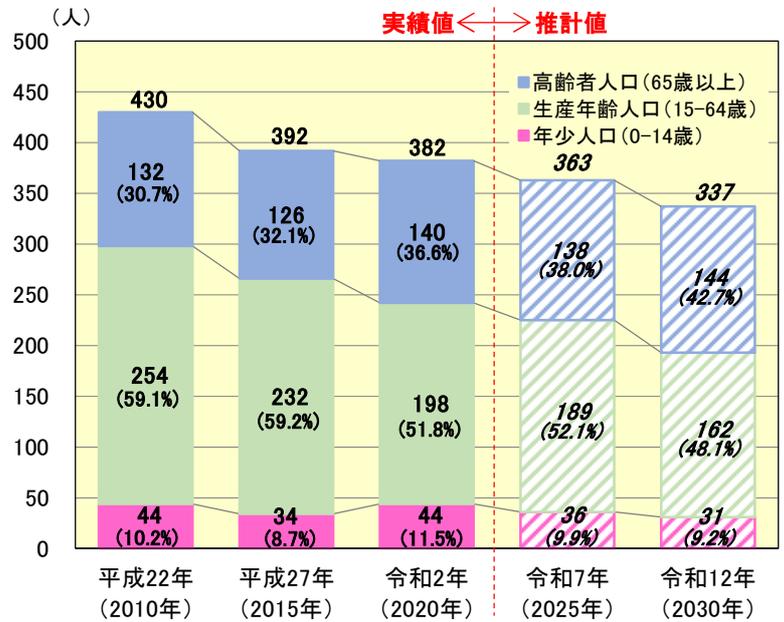
1. 和合自治区の現状

＜人口の減少、特に子どもや若い人の減少＞

- 令和 2 年の人口は 382 人であり、この 10 年間で 48 人減少しています。15 歳から 64 歳の生産年齢人口は大きく減少し、ています。
- この傾向が今後も続くと、令和 12 年の人口は 337 人とさらに減少し、特に、生産年齢人口の減少がさらに進み、高齢化率は 42.7%になると予想されます。

＜人口減少が地域に及ぼす影響＞

- 住民の減少と高齢化、特に高齢者のみの世帯が増加していますが、地域のコミュニティにより、地域の運営や住民どうしの支え合いが機能しています。また、空き家や空き地は増加していますが、活用しようとする機運が高まりつつあり、移住者への提供なども行われ始めています。



年齢別人口のこれまでの推移と今後の推計

※各年 10 月 1 日 年齢は学齢

(実績値は住民基本台帳、推計値は豊田市下山支所の推計)

2. 和合自治区の 10 年後の将来像

- ▼高齢者は増加しますが、寝たきりにならず、心も体も元気よく過ごしています。
- ▼地域内での見守り、支えあいが負担なくほどよい距離感でできています。
- ▼地域の人達が、気軽に触れ合うことが出来る機会が設けられています。
- ▼年齢問わず、女性が活躍し、地域の運営にも参画しています。
- ▼地域による子育て世代の女性がのびのび活躍できるように、まどいの丘を活用した情報交換の場づくりを進めています。また、女性が働ける場所の検討や要望を行っています。
- ▼地震などの大きな災害が発生しても、手ぶらで速やかに避難できるような体制づくりと日頃からの気構えができています。
- ▼空き家・空き地の活用がしっかりとされており、移住者が増加しています。
- ▼イベントや特産品、シンボルを通じて、地区外との交流が盛んに行われています。
- ▼人口が減少するなかでも自治区や組の運営を見直し、次の世代に引き継がれ、存続しています。

3. 和合自治区の5年間の取組

取組1 **みんな生き生き まめ（健康）になりん** **【健康増進】**

60・70・80は働きざかり、心も体も前向きにしまいか！

取組2 **お互いに見守り、ちょっと助けあえたら安心だらあ** **【助け合い】**

声をかけ合い、知り合い、和み合い、助け合うまいか！

取組3 **「女性が元気は、家庭も元気、地域も元気」だがん** **【女性活躍】**

女性が楽しく、積極的に活動できる地域にしまいか！

取組4 **早めの避難が安全じゃん** **【防災対策】**

迷わず、ためらわず、自分の命は自分で守らまいか！

取組5 **組・自治区を振興しまいか** **【自治振興】**

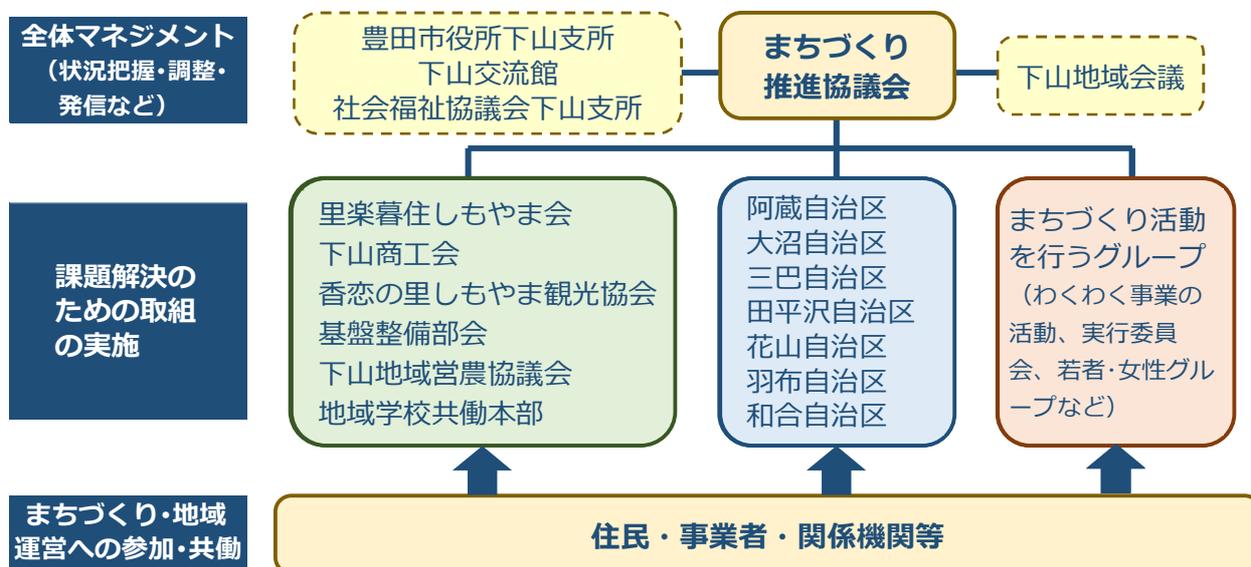
明るく楽しく元気な地域を維持し、発展させまいか！

令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
<1. みんな生き生き まめ（健康）になりん>				
前向きに健康寿命を延ばすまい				
健康寿命の講演会	家庭体操・歩き方教室	歩け歩け大会の開催、自治区だより発行（毎年）		
ふれあいで「生き生き」生活 「地域ふれあいサロン」「自治区ふれあいサロン」開催、「お助け隊」の創設				
<2. お互いに見守り、ちょっと助けあえたら安心だらあ				
あいさつからご近所ネットワークづくり 自治区だより「あいさつ運動」（毎年継続）				
緊急時連絡先一覧の作成	配布と更新（毎年）			
班を中心とした「近助（近所）」の活動	意識づけ、活動状況把握と普及活動（毎年）			
<3. 「女性が元気は、家庭も元気、地域も元気」だがん>				
女性の視点で女性ならではの活動 女性のリーダー発掘・女性懇談会の促進・自主活動グループの育成（毎年）				
子育てと仕事が両立できる環境整備 対象女性に意見聴取と実現に向けての環境整備の計画、実行促進（毎年）				
<4. 早めの避難が安全じゃん>				
避難場所（まどいの丘）設置の防災倉庫の管理維持 防災委員会と自治区組役員による管理維持計画と備蓄（毎年）				
防災関連資料の作成と更新				
作成・整備	毎年更新			
班中心の「近助」の体制づくり				
体制づくり	意識づけ、活動状況把握と普及活動（毎年）			
実地的な防災訓練の計画・実行				
訓練計画作成	住民参加の防災訓練の実施（毎年）			
<5. 組・自治区を振興しまいか>				
定住・移住・交流促進 住み続ける取組・空き地空き家発掘・自治区紹介情報発信（毎年）				
移住者の活躍支援 （地域産品づくり、地域外との交流活動）（毎年）				
道路整備（生活道路）、農地・山地の維持管理 もみじ街道整備、各組のシンボルづくり（神殿町さくら公園、和合の里文字） 地域運営機構の再検討（毎年）				

まちづくりの進め方と進行管理

1. まちづくりの進め方

- ・まちづくり推進協議会は、このプラン全体の実施状況について把握し、調整や情報の発信・伝達等を行います。
- ・下山地域会議、豊田市役所下山支所、下山交流館及び社会福祉協議会は、まちづくり推進協議会の運営及び下山地区のまちづくりの全体をサポートしていきます。
- ・まちづくりの具体的な取組については、各構成団体や自治区が中心となって行います。構成団体や自治区だけではなく、下山の課題解決に貢献する活動を行うグループや団体等についても、積極的に連携・共働・支援等を行います。
- ・下山の住民・事業所・関係機関等は、構成団体、自治区、有志グループの活動を通じて、まちづくりや地域運営に参加・共働していきます。



2. プランの進行管理

- ・毎年度、プランに基づくまちづくり活動の経過・成果の発表会を公開型で開催し、プランの実施状況や下山の新たな課題について、住民や関係者と共有していきます。
- ・必要が生じた場合には、このプランの見直しを検討します。

3. プランの進行管理において毎年度確認する指標

A. 人口関係 ⇒定住人口

1 下山地区の人口（10月1日現在 住民基本台帳）

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
人口	4,312					
0~14歳	369					
15~64歳	2,466					
65歳以上	1,477					

2 各自治区の人口（10月1日現在 住民基本台帳）

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
阿蔵	213					
大沼	1,034					
三巴	230					
田平沢	314					
花山	1,811					
羽布	328					
和合	382					

3 下山地区の人口異動の状況（前年の10月1日~当年の9月30日 住民基本台帳）

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
出生	8					
死亡	62					
転入・その他増	81					
転出・その他減	108					

B. 観光関係 ⇒交流人口

1 主な観光地の年間入込客数（前年の愛知県観光レクリエーション利用者統計）

	令和2年 （元年）	令和3年 （2年）	令和4年 （3年）	令和5年 （4年）	令和6年 （5年）	令和7年 （6年）
三河湖	456,037					
三河高原	34,738					
野原川	33,506					
計	524,281					

C. 住民意識 ⇒持続可能なまち、「安心感」・「わくわく感」が実感できるまち

1 住みやすさ（前年の調査結果 市民意識調査）

	令和2年 (元年)	令和3年 (2年)	令和4年 (3年)	令和5年 (4年)	令和6年 (5年)	令和7年 (6年)
住みよい	22.4					
どちらかと言え ば住みよい	44.9					
計	67.3					

2 定住意識（前年の調査結果 市民意識調査）

	令和2年 (元年)	令和3年 (2年)	令和4年 (3年)	令和5年 (4年)	令和6年 (5年)	令和7年 (6年)
今のところに 住みたい	61.2					

3 地域への愛着（前年の調査結果 市民意識調査）

	令和2年 (元年)	令和3年 (2年)	令和4年 (3年)	令和5年 (4年)	令和6年 (5年)	令和7年 (6年)
感じている	46.9					
やや 感じている	27.6					
計	74.5					

4 地域への愛着（前年の調査結果 市民意識調査）

	令和2年 (元年)	令和3年 (2年)	令和4年 (3年)	令和5年 (4年)	令和6年 (5年)	令和7年 (6年)
感じている	30.6					
どちらかと言え ば感じている	49.0					
計	79.6					

5 自治区・地域活動への参加（前年の調査結果 市民意識調査）

	令和2年 (元年)	令和3年 (2年)	令和4年 (3年)	令和5年 (4年)	令和6年 (5年)	令和7年 (6年)
よく 参加している	31.6					
ときどき 参加している	38.8					
計	70.4					

参考. 策定の経過

<下山地域まちづくり推進協議会>

令和元年度第 1 回協議会	令和元年 5 月 23 日 (木)
第 2 回協議会	6 月 24 日 (月)
第 3 回協議会	8 月 19 日 (月)
第 4 回協議会	10 月 21 日 (月)
第 5 回協議会	12 月 9 日 (月)
第 6 回協議会	12 月 13 日 (金)
第 7 回協議会	令和 2 年 2 月 13 日 (木)
第 8 回協議会	3 月 16 日 (月)
令和 2 年度第 1 回協議会	7 月 30 日 (木)
第 2 回協議会	12 月 23 日 (金)

<構成団体、関係団体ヒアリング等>

里楽暮住しもやま会ヒアリング	令和元年 6 月 12 日 (水)
下山商工会ヒアリング	6 月 25 日 (火)
下山地区区長会ヒアリング	7 月 5 日 (金)
下山地域営農協議会ヒアリング	8 月 1 日 (木)
下山地域会議	8 月 22 日 (木)
子育て世代座談会	11 月 18 日 (月)
下山中学校 2 年生座談会	12 月 18 日 (水)
活動団体との意見交換会	令和 2 年 12 月 15 日 (火)

<その他>

各自治区による検討会	令和元年度～2 年度
住民からのパブリックコメント	令和 2 年 12 月

<下山地域まちづくり推進協議会 委員名簿>

役職	氏名	団体名
会長	かとう しげひろ 加藤 繁廣	下山地区区長会
副会長	たかだ やすひろ 高田 康弘	下山地域会議（令和元年度）
副会長	こはら ひでみ 小原 季美	下山地域会議（令和2年度）
会計	かわい としひと 川合 寿人	しもやま里山協議会
監事	まつだ としあき 松田 敏明	基盤整備部会
委員	くろき こうじ 黒木 浩次	里楽暮住しもやま会
委員	さわだ ふみお 澤田 文雄	下山商工会
委員	しばた よしろう 柴田 吉朗	香恋の里しもやま観光協会
委員	あさみ ふじお 浅見 富士男	下山地域営農協議会
委員	さかい やすひこ 酒井 保彦	地域学校共働本部
顧問	かみや かずとし 神谷 和利	愛知県議会議員
顧問	やまぐち こうがく 山口 光岳	豊田市議会議員
顧問	ふかつ ひでひと 深津 秀仁	豊田市議会議員（令和2年2月～）

しもやまスマイルプラン

令和 3 年 3 月

発行:下山地域まちづくり推進協議会

(事務局:豊田市役所 地域振興部 下山支所)

豊田市大沼町越田和 37 番地 1

電話:0565-90-2111

メール:shimoyama-shisho@city.toyota.aichi.jp

